
仮面ライダーファイズ×スイートプリキュア！転校生は仮面ライダー？

R × P

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーファイズ×スイートプリキュア！ 転校生は仮面ライダー？

【Zコード】

N1734X

【作者名】

RXP

【あらすじ】

渡達がいなくなつて3週間後、突然加音町の私立アリア学園に転校生、犬上狼がやってきた！果たして彼らとの出会いはなにを意味するのか！

別の世界の仮面ライダーファイズとプリキュアが今会いつ！

オリキャラの設定と紹介！（前書き）

一部修正版です。

オリキャラの設定と紹介！

555の主人公および仲間達です。全員オルフェノクであります。

犬上 狼／仮面ライダー555／ウルフオルフェノク
いぬがみ ろい

年齢14

演 宮野真守

1人呼は俺【時々僕】

本作オリジナルの主人公でスイートプリキュアのアリア学園中等部に転校生としてやってきた。

見た目とは裏腹に口が悪いが、実はシャイで本当は優しく素直に言えない性格だったが仲間と接する事でだいぶ穏やかな性格になつていった。

スマートブレインのチームジャスティスの隊長を勤めており、またこの世界で侵攻し増えたオルフェノクと 戦う為ファイズに変身する！

年齢の割にはかなり大きく165センチある

女の子が少し苦手だったが今は無くなつており普通

口癖は「つたく！しかたね～な！」

ケーキが大好きでありまた、ウルトラマンのコスプレ好き！

得意なバトルスタイルはあらゆる格闘技を応用した技を使って戦う！

富岡成二／仮面ライダーカイザ／ホースオルフェノク
とみおか せいじ

年齢25

演 高岩成一

1人呼は俺または私

狼と甲の上官で彼らの兄貴分！

非常に熱い性格の持ち主だが頭はかなり切れる？男であり情報分析が得意！

ファイズのプロトタイプ、仮面ライダー・カイザに変身する！
得意なバトルスタイルは原点のファイズ同様ラフスタイル！
悪癖として熱血捨て身戦法が得意！

三島甲／仮面ライダー・デルタ／タートルオルフェノク
みしま こう

年齢 14

演 三浦涼介

狼の親友で最初はファイズ装着者になる予定だったが選ばれず、2つのライダーのプロトタイプ仮面ライダー・デルタの装着者に任命された。

性格は真面目だが、少しドジな所がある！甘い物が苦手だったが奏のケーキで好きになった

身長は狼と同じ。

バトルスタイルはキックボクシングスタイルを得意とする
また射撃も上手い！

ライオトルパー部隊

スマートブレインに所属している正義のオルフェノクが集まって結成された戦士達！

人々を守る為に命をかけてファイズと共に戦う！

エボルトオルフェノク

今作オリジナルの敵組織！

人類をすべてオルフェノクにしようと企んでいる。またスマートブレインから帝王のベルトを奪つて戦いをいどんでいる。実はノイズが別の世界を支配する為に作った組織もある！

Z／仮面ライダー・オーガ／アークオルフェノク／犬上巧
いぬがみくみ

演 半田健人

仮面ライダー オーガに変身するエボルトオルフェノクのリーダー！
なぜこのような企みを立てたかはわかつたが、アークに操
られている浪の父親だと言う事が劇中で明らかになった！
本来のファイズの変身者でもあり優しい人物でもあつた。
現在は元にもどつており今は入院している。

姿は原作と同じ乾 巧

D／仮面ライダーサイガ／タイガー オルフェノク
Zの弟精神が幼い子どもその物だが、非常に好戦的な性格である！
自我が無いような話し方が特徴
実はある人物がライダーとプリキュアをあざむく為に変装した姿で
もある。
また本当の弟ではない！

オリキャラの設定と紹介！（後書き）

next Fairz

転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！

転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！（前書き）

一部修正です！

仮面ライダー×スイートプリキュアのコラボ第3弾お楽しみください！
ではstart up！

転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！

その日、響達の教室である話で持ち切りだった。なぜなら転校生がやつて来るのだ！

響「転校生か～？どんな子何だろ～？奏～どっちか聞いてない～？」
奏「わからないわ～！」響！シャキッとしなさいよ～！」

響は机上でだるそうにしていた。

エレン「熱でもあるの？響？」

響「うううん、疲れただけ。こここの所ネガトーンが少ないから助かっているけど。」

奏「もう～！響たら～！」

エレン「ねえ！私の窓側の隣の席空いているんだけど……」

響「転校生の席かもね～！！ふあ～眠いな～」

するとチャイムがなり生徒の1人が

男子「先生がきたぞ！しかも男子が一緒だ！」全員すぐに席に着く先生が教室に入り教台の前に立つ！

生徒「起立！礼！おはよう！」ざいます！

先生「皆さん！おはようございます！ではまず転校生を迎えますね～入つて来て～！」

すると犬上狼が入つて来て教台の隣に立つ。なぜかだるそ～に～！響達はこう思っていた

響「？だるそうにしている？」

奏「なんだろ～？」

2人「エレンと同じパターン来ないよね！」

生徒「イケメンだな～」

女子「格好いい！」

狼【うわ！女子いやがる！最悪だなこりゃ～】
と思っていたら

先生「さあ自己紹介して」

犬上「あつはい！」

黒板に名前を書いてから

狼一僕は犬上狼（ろうです！狼）て読んでください。よろしく、ペ
「ことと軽く頭を下げる

先生、他に何か話す事はないのですか？」

先生、一じやあ狼君は、へ！

狼「えつあつはー！」

するとハレンが話しかける

コレン はじめまして猪俣一和黒川コレン でござる

なぜか顔を見ないで返事する。

ハレン「どうして顔そむけるの？」

猿の氣はしないでくれ……」

先生「さあ授業始めるわよ！」

45分後の木曜時間、多くの生徒が狼に質問する。

女子「ねえ！狼君つてモデルとか何かやつているの～？」

獨一別に！僕モテ川は興味なしし芸能人あんまり知りたしから

男子「じゃあ前の学校ではモテたのか?」

狹別に

女子「なんで玄校して来たの？」

狼「親父の都合だよー。ショッちゅう転勤だつたから」

男子 -

娘「ああ、携帯ー」のものが

狼「ああ、携帯いじるのが好きだな…後クラシック聞くのが好きだ

な…顔近いよ君…」

響が顔を前に出しながら聞いてきたのだ！

奏「響…やめなさ…よ…びっくりさせないじやない…」

怒る奏

響「アハハ！」めん！「めん！あつ血口紹介まだだつたね…あたし

北条 韶！

奏「もう…狼君！」めんね？あつ私は南野 奏よ…ようしくね

笑顔で話す奏

狼「ああ…ようしくな」

女子「狼君の好きな食べ物とか何かな？」

狼「ケー キだな…！」

奏「じゃあ放課後に家庭科室に来てね！私スイーツ部やつているの

」

狼「ああ…後で行くよ…」

エレン「嫌いな物はあるの？」

狼「まあ…無いな」実際は女の子が苦手だが言えなかつた。

そして昼休み！

響たちは歩いてベンチに向かつていた。

響「さあ～お弁当だ！今日は一番おいしいおかず入つて…いるから樂しみ～」

奏「ふふふ 嬉しそうね響」

エレン「本当よね～あれ？狼君？」

狼は響達がよくお昼を食べるベンチの隣で携帯電話をいじつていた。しかもやけに分厚い携帯電話を

響「狼～君～何してるの」

狼「うわあ～びっくりした！何だよ～びっくりさせんな！」

響「うひつごめん！そんなつもりじゃなかつたのよ～！お詫びと一緒ににお昼食べない？」

狼「わつ悪い！さつき弁当食つたからーそれじゃあー」

足早に逃げて行つてしまつ狼

響「あつ！行つちやつた！」

奏「あら？コレ狼君のじやない？」

見るとさつきの携帯電話【ファイズフォン】がベンチに落ちていた。

エレンが手に取る。

エレン「やけに分厚いわね～！携帯電話つてこんな物なの？」

響「ううん、多分古いタイプね！しかも見たことない携帯ね？」

確かにファイズフォンは一般的の携帯より分厚いのだ。

奏「今どきにしてみれば珍しいわね～？あら？何かしらこのマーク？」

ファイズフォンのマークが気になる奏するとエレンが

2人「ちょっと！エレン勝手に開いてらまざいよ～！」

エレンがなんと勝手にファイズフォンを開いてしまつたのだ！

エレン「携帯のメーカー見るだけよ。え～とメーカーは…スマートブレインね」

響「スマートブレイン？」

奏「聞いた事ない会社ね？」

エレンはファイズフォンを閉じて

エレン「後で狼君に…あ戻つて来たわ！」

狼が走つて戻つてきた！

狼「悪い！それ返してくれ！」

エレン「あつうん」

エレンが携帯を差し出したので狼は受け取る。

狼「サンキューな…じゃあ！」

狼は走つて行つた。

響「なんかさあ～狼君私たちを避けてない？」

走り去つて行つた狼を見ながら

奏「うん！私も思った。」

エレン「何か隠しているのかな？」

響達は？になりながらベンチに座りお昼を食べ始めた頃、人がない所で狼がファイズフォンを耳に当てる場所からの連絡を受けていた。

狼「わかつた…任せてくれ兄貴！」
ファイズフォンを切り、

狼「さて！準備するか！」

駐輪場に止めてあるバイクのトランクを取りに走り出した

【放課後】

響はテニス部の助つ人に奏とエレンは家庭科室に向かつた。奏は今日のケーキを作り始めエレンは見学する。

奏「～」と歌いながらケーキ生地を作っていた時！外で爆発が聞こえてきた！

奏「まさか！ごめん後で戻るから！エレン！」

エレン「わかつたわ！」とエレンと一緒に外に向かつて走る！

女子「あつ奏！」響が走ってきて合流し門に向かつて走る！するとそこにはロボット型ネガトーンがいた！トリオザマイナーも一緒に

響「またアンタ達なの！」

バスドラ「そのまさかだ！覚悟しろプリキュア！今日こそ倒してやる！」

三人はキュアモジューレを取り出す！【校門近くの生徒は泣いていた為気づいてない】

三人「みんなを泣かせるなんて！絶対に許さない！レツツブレイ！プリキュア・モジュレーシヨン！」三人は変身する！

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」三人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」三人は決めポーズを決める！

バスドラ「やれ～ネガトーン！」

ネガトーン「ネガトーン！」

メロディー＆リズム「はあ～！」

2人は同時にパンチを 叩きこむ！だが堅いボディにはパンチは通用せず、2人は手を抑えながらぴょんぴょん跳ねた！

メロディー＆リズム「いつた～い！」

ビート「2人共大丈夫？ハ！フツ」

素早く回避してビートはネガトーンの後ろに回りキックを決める！

ビート「え～い！」

だがこの攻撃も全然効いてなかつたようでビートも足をもちながらビート「いつた～い！なんて堅いボディなの！」同じくぴょんぴょん跳ねた！

メロディー「アイツ体堅すぎ…」

リズム「どうすれば！」

ビート「ここは連結でいきましょ～う！」

2人がうなずき、三人で連携攻撃で果敢に攻めるがやはりネガトーンは堅いボディのせいでなかなかダメージを与えない…するとネガトーンのパンチが三人に炸裂して三人は地面に叩きつけられた！

メロディー「くつ…」

リズム「う～！もう…こうなつたら…」

ビート「遠距離攻撃で行くしかないわ！ラブギター ロッド！」

ビートはラブギターロッドを取り出して

ビート「ビートソニック！」

音符型の矢が全て命中するがダメージがなかつた。

ネガトーン「ネガトーン！」

ビート「そんな！」

メロディー＆リズム「それなら…プリキュアハーモニー ショット！」

2人は手を合わせてエネルギー波を放つがこれもネガトーンには効いてなかつた！

メロディー＆リズム「なんで！」

バストラ「当たり前だ！これまでの戦いの対策としてある研究所から盗んだ超合金のボディを持つロボットを使ったんだ！だから格闘技や光線技そして仮面ライダー対策もばっちりだからな～！やれ～

ネガトーン！

メロディー「何で仮面ライダー対策？」？になるメロディー

バスドラ「ウルサ～イ！行け～ネガトーン！」

ネガトーン「ネガトーン」

ネガトーンが攻撃再開をして來たので避けるメロディー達！

三人「くっどうすれば！ああ！」

ネガトーンは鉄の輪つかでメロディー達を地面に固定してしまつ！

メロディー「なんて重いの！くう～！」

リズム「ああ！くつ動けない！」

ビート「メロディー！リズム！このままじゃ！」

バスドラ「ハ～ハハハハハ！今日は我々の！なんだあれは！」

【ブゥ～ン】

突然誰も乗つていないバイクが走つて来てネガトーンに体当たりをして吹き飛ばす！

バスドラ「なんだコレは？バイクが何故！なんだ！」

無人のバイクが空中で【battle mode】と音声が鳴り変形してロボットになる！

ファイズの愛車であり相棒のオートバジンが起動したのだ。

メロディー「なにこのロボット！」

リズム「バイクがロボット！」

ビートはチラリとオートバジンのメーカーが見えた！するとビートはこう思った。

ビート「【スマートブレインモーターズ？もしかして同じ会社から？一体誰が？】」

バスドラ「なんだお前は！」

オートバジンはスターホイールを取り出して射撃を開始してネガトーンに攻撃する！もちろんダメージは無いがネガトーンは一斉射撃にひるむ！

そしてオートバジンはメロディー達を固定していた輪つかを抜き取

つて、メロディー達を解放する。

メロディー「ありがとう！ロボットくん！」

するとオートバジンの顔のモニターに文字が表示された、英語でオートバジンと書いてある。

リズム「オートバジン？」

ビート「名前かしら？とにかくありがとうございます！」

三人はバスドラとネガトーンに向き直る！

メロディー「さあ！行くわよみんな！」

リズム「オッケー！さつきのお返ししなくちゃね～！」

ビート「行くわよ！」

バスドラ「ええ～いネガトーン！何やつてるんだ！アチイー誰だ！」

狼「俺だよ！」

犬上狼だつた！

狼「つたく！しかたね～な！スイーツ部に南野さんがいないから探していたら、まさか探していたプリキュア達に会えて、オマケに盗難されたXT-1利用しやがったマイナーランドか！」

全員が打つてきた方角を見るといつの間にか狼がフォンブラスターに変形したファイズフォンを右手で握り左手にファイズシステムと書いたトランクを持ち、ぶつくさ文句を言う犬上狼が立っていた。

メロディー「あなたは！」

リズム「ここは危険よ！逃げて！」

狼「なんで逃げる必要があるんだ？！」

教室にいた印象と違い堂々と応える。

ビート「あなた一般人でしょう？危ないから逃げて！」

狼「だから必要ねえよ！俺は任務の為に来ただけだ！」

三人「え！」

バスドラ「貴様何者だ！」

イライラしたバスドラが聞く

狼「俺か？俺は任務でプリキュア達と共に戦う戦士だ！」

メロディー達「えー！どういう事？」

狼「後で説明してやる！行くぜ！」

狼は持っていたトランクからファイズドライバーを出して腰に装着してフォンブラスターをファイズフォンに戻し555と入力してEnterを押す！

【Stationing・by】

と音声がなり狼はファイズフォンを閉じてを斜めに構え叫ぶ！

狼「変身！」

【Complete】

と音声が出てファイズフォンをセットしたドライバーから赤いライン、フォトンブラッドが発生して狼の体にラインを作り赤く輝き！一瞬で赤いラインが入ったメカニカルなスーツを着た戦士に変わる！メロディー「あれって！」

リズム「まさか！」

ビート「仮面ライダーファイズよ！でもどうして！」

響達は以前ディケイドが召還した仮面ライダーファイズを思い出した。

バスドラ「仮面ライダーだと！またか！」

ファイズは指を鳴らしてからこう言う！

ファイズ「俺は仮面ライダーファイズ！さあ来いよそこのお前らー！」腕を回し挑発するファイズ

するとバスドラが笑い出した！

バスドラ「フフフ！ワハハハ！バカか！格闘技が効かない敵にどうやって勝つつもりだ！それに仮面ライダーは格闘技や銃や剣をつかうんだろ？対策バツチリのネガトーンに勝てる訳がない！わはははは！」

バスドラ達は馬鹿笑いする！だがファイズは

ファイズ「ふん！そうかよ！俺を舐めると痛い目に会うぜー仮面ライダーは格闘技だけが取り得じゃないって事を教えてやるー！」

ファイズはオートバジンに近づいてハンドルの部分にミッションメ

モリーと並んでモリーカードをファイズフォンから外してファイズエッジにセットする【Ready】と音が鳴り剣が出現した。

メロディー「あれは？」

リズム「剣？でも」

バスドラ「馬鹿が無駄だと！何～！」

ファイズはファイズエッジでロボットの腕をいとも簡単に切り裂いてしまったのだ！

しかも切り口が溶けていた！

バスドラ「どうなっているんだ～！」

ファイズ「俺のスーツとファイズエッジのエネルギー源はフォトンブラッドと言う特別なエネルギー源何でね！金属なんて簡単に溶かしてしまうのさ！」

バスドラ「そんな～！」

トリオはアタフタと焦る！

メロディー達「スゴ～イ！」

ファイズ「さあ！一気に終わらせてやるか！」ファイズはファイズエッジでロボットネガトーンに切りかかりダメージを与えてボロボロにする！

ファイズ「うおりや！ハア！せいや！」

ファイズは連続で剣術を決めていきロボットネガトーンを倒す！

バスドラ「あわわわ！」

メロディー「スゴ～イ！狼君強すぎ！」

リズム「どうなっているの？あんなに早くしかも動きもいいし！」

ビート「狼君は戦い慣れしているわね！一体どうして？」

唚然として突つ立つたままになるプリキュア達

狼は明らかに少年と思えない動きで戦いそして

ファイズ「さあ！決めるぜ！」

ファイズはファイズフォンを開いてEnterを押して閉じる。

【Exseed charge】

と音声がなりファイズはファイズエッジを下から上突き上げて衝撃

波を地面から飛ばしネガトーンをロックする！

ネガトーン「ネガトーン」

ファイズ「終わりだ！スパークルカット！ハア！」

ファイズエッジの必殺技！スパークルカットが炸裂しファイズの文字が浮かんだ後！音符を残してネガトーンを倒す！

メロディー「浄化無しで音符だけ！」

バスドラ「あわわわ退却だ！」

トリオザマイナーは慌て退却した。

ファイズ「さて任務完了！」ファイズエッジをオートバジンに戻した後メロディー達が警戒しながら近づいてきた。

メロディー「助けてくれてありがとう。それと、狼君あなた一体？」

ファイズ「俺はこの町を守る為マイナーランドやオルフェノクと戦う戦士だ！ファイズさ」

自慢げに言う狼！

メロディー「！つてあんた！ロボット壊しているじゃない！どうしてくれるのよ～！」

メロディーが抗議を始める！なぜかと言うとネガトーンは本来浄化して音符とネガトーン化した物に戻さなければならないのだ！だがファイズは事もあろうにロボットを破壊してしまったのだ。

ファイズ「あのロボットは元々俺の親父の会社で作られていた試作品のロボットだ。心配ないぜ！今日廃棄処分する予定だつたからどの道破壊するつもりだつたんだ。」

リズム「え！じゃあ知つていて破壊したの！良かつた～いきなり破壊したからびっくりしたもの」

ファイズ「兄貴からの任務でな。ああするしかなかつたんだ」手を上げて振りながら言う

するとビートが

ビート「ところで？オルフェノクって？」

ファイズ「オルフェノクって言つるのは死んだ人間が突然変異で生き返つて超人的パワーを身に付けた人間さ！今特に危険なオルフェノ

クが急激に数を増やしているから…

とりあえず続いている俺たちに場所を変えようぜーここだと人がすぐ来るだろーし！

三人は領き変身を解消する。ファイズはプリキュアの正体を知つて驚いた

ファイズ「マジかよ！君たちがプリキュアだったか！…びっくりしたぜ！」

ファイズも変身を解消する

響「私たちも驚いたわよ！」

奏「いきなりそつちも変身するし」

エレン「仮面ライダーって色々いるんだね！」

狼は【?】となりながら

狼「少し待つてろ！」と言いファイズフォンで車を呼び出して、数分後に三人を乗せる。

響「あれ？乗らないの？」狼はオートバジンのファイズマークを押してオートバジンをバイクルモードに戻して乗りながら、狼「オートバジンに乗つて行く！これ一応自転車扱いにしてあるから！」

三人「それが自転車！？」

狼「ああ！」なんとも言えない事実が出たのだった！

続く！

転校生は仮面ライダー？ファイズ登場！（後書き）

next F a i z 出動！ライオトルバーズ！オルフェノクの秘密
!

出動！ライオトルパーズ！オルフェノクの謎！（前書き）

第一話いよいよ完成しました！
では startup

出動！ライオトルパーズ！オルフェノクの謎！

響達が車に乗つてから数分後、響達は見慣れない会社スマートブレイン社の駐車場に到着する。

響「ここは？って言うかあたし達学校の部活が！」

男性隊員！「ここはスマートブレイン社です。主に家庭製品などを開発する会社です。学校の方にはすでに特別下校許可が出ていますのでご心配なく。！！まだ下りないでください！」

エレンが扉を開けようとしたので止める隊員。

エレン「えつ？下りないの？あれ！」

突然車の止まつた場所が【ガコン】っと音がなり車を乗せた床が地下に下りる！

エレン「えつ！コレは！」

奏「動いた！」

響「もしかして地下があるの！」

隊員「はい！今から地下にある我々の秘密司令部に来てもらいます！よろしいですね？」

響「へつ？」

奏「はあ？」

エレン「？」

地下に下りている途中でエレンが狼を見つける！

エレン「あれって！みんな！狼君とオートバジンよー！」

窓を見ていたエレンが狼とオートバジンに気付く！

オートバジンに乗つてやつた来た狼はエレン達に気づいて手を振る。そして地下室に到着して全員車から下りて、スマートブレインが作った特殊戦闘部隊の基地通称スマートに到着する

響「こんな地下に基地があるなんて！」

奏「スゴイ！驚いたわ！」

エレン「でも何で地下に基地があるの？」

狼「敵に見つからぬようにするためさ！」

すると隊員が

隊員「狼隊長！我々は見張りの任務があるので失礼します。」

狼「ああ！頼んだぞ！」

隊員「はい！」

全員敬礼して走って行く！

響「狼君が隊長！嘘！」

狼「言つてなかつたな…俺このチームの一つジャステイスの隊長なんだ！」

三人「えー！」

それから4人はスマートの中に入つてエレベーターに乗り狼がファイズフォンをチエツカーに当てる！【complete】と音声が出ると響達を乗せたエレベーターが動き出した。

響「どこに向かっているの？」

狼「司令室さ！けつこう時間かかるからさつきの話しの続きを話しておこう。」

狼は先ほどの話しを話し始めた！

狼「俺たちが追つているオルフェノクはエヴォルトと言ひ組織に所属した危険なオルフェノクを始末しているんだ。」

響＆エレン「危険なオルフェノク？」

奏「オルフェノクが全て危険なの？」

狼「いいや、全部が危険つてわけじゃない、もつともオルフェノクには三種類存在するんだ。自然に誕生するナチュラル！人間にオルフェノク細胞を移植して2つの種族を融合させたハイブリッド！そして人間に危険な薬品をエヴォルトウイルス使って強制的にオルフェノク化させた奴がエヴォルトだ！ちなみに俺はハイブリッドだけだな！」

3人「えー！狼君オルフェノクなの！」狼「ああ…だが心配するな！ハイブリッドは人間の細胞が融合している為に暴走は起こらないんだ。だから俺は人間を絶対に襲わない。まあオルフェノクには

変身出来るが…」

奏「身体は大丈夫なの？細胞が全てオルフェノクになるとか」

狼「無い。細胞が融合しているからナチュラルより精神が安定しているからな。」

エレン「ナチュラルは安定しないの？」

狼「ソイツ次第だな。ナチュラルは自然に発生したオルフェノクだから、人間の頃の優しさや感情がある奴もいるがたまに理性を無くして暴走する奴がいる。もつともスマートブレインで働いている社員はハイブリッドが多いが数人ナチュラルもいる。」

エレン「そうなんだ。」響「後、エヴォルトウイルスって？」

狼「エヴォルトウイルスは元々スマートブレインが開発した試作品のオルフェノクを人間に戻す薬品だ。だが色々壁に当たって計画は中止になつて薬は廃棄処分されるハズだつたんだ。だがかつてこの研究者の兄弟がそれを強奪して行つたんだ。帝王のベルトと共に…おっ！着いたなベルトの話しさまた後でな！」エレベーターが止まり三人が額くとエレベーターが扉が開く！すると田の前はオペレータールームだつた！

オペレータールーム中は沢山のモニター・パソコン…そして大勢のオルフェノク達【人間体】がいた！

3人「スゴイ！」

狼「ようこそ！俺んちへ！ついて来てくれ！司令室に案内するよ！」三人は狼について行き司令室に到着する。

狼「成二兄さん！帰つたよ！」

成二「おー！帰つたか入つてくれ！」

響「お兄さんいたの！」

狼「違うぜ、成二さんは兄弟じゃないけど、中がいいから義理の兄弟みたいなもんなんだ」

三人「なにそれ」

こんな会話をした後、全員司令室に入り富岡成一と対面する！

成二「ようこそスマートへ！私はここ司令官、富岡成一だ。よろ

しく

響「よろしくお願ひします。私は北条響です。」

奏「南野奏です」

エレン「黒川エレンです。好きな色は…」

2人「だから！エレンそれはいらないって！」

またしても見事にツッコム！

そして自己紹介を終えた後、三人はプリキュアの説明をして、成二が納得した後三人がファイズの事と帝王のベルトの事を教えて欲しいと頼んだのでマスクドライダーシステムの説明を成二が始める。成二「ファイズは対オルフェノク用特殊バトルスーツとして開発した物だ。パワー・バランスが優れている為、あらゆる戦況に対応出来るように設計しているんだ。また、彼以外は変身出来ないようになっている。」

奏「どうしてですか？」

成二「敵に捕られて利用されるのを防ぐ為だ。なにしろ力が強いからね！」

奏「なるほど」

成二「後に君たちプリキュアの浄化技を応用したシステムを組み込む予定もある。不完全ながらネガトーンにも対応しているがまだまだデータが足りないんだ！そこで君たちプリキュアのデータを集めれる為にぜひ我々に協力して欲しい！」

響「私たちが協力を？」

成二「そうだ、今エヴォルトオルフェノクはマイナーランドと手を組んでいるはずだ。」

奏「本当ですか！」

エレン「でも何でマイナーランドが？」

成二「理由はおそらく君たちプリキュアを倒す為だろう。だから我々も協力関係になつて人々の安全を守りたいのだ。」

真剣な眼差しで響たちを見つめる！

響「どうしようか？」

奏「確かに仮面ライダーが戦力になると心強いけど」

エレン「うーん」

三人が悩み始めたので成二は

成二「別に今日返事をしなくてもいい！ ゆっくり考えてくれ」
につっこり笑いながら言う成二

三人「わかりました。」

次に成二は帝王のベルトについて話す

成二「帝王のベルトはファイズシステムをベースにそれぞれ新しい能力を追加させた新型でね、サイガはスピード、オーガはパワーなどがファイズより優れている物だった。だが強すぎる為並みのオルフェノクや人間では使用すらままならなかつた。そこで保管して適合者を探す事にしたのだが奪われてしまったんだ。」

響「ベルトはなぜ奪われたんですか？」成二「わからない、最終調整が終わる前にZ達兄弟に強奪されてしまったし。おそらく力が欲しかつたんだろう… うん？ 失礼！ どうした？」

突然モニターにオペレーターが会話を話しかけてきた。

オペレーター「司令官！ 町と加音町の商店街でエヴォルトワールス反応です！」

成二「なに！ 直ちにチームジャスティス！ チームフリーダム出動だ！」

？ 「了解！ 行きます！」

狼「よっしゃ！ 任せろ！」

響「私たちも手伝わてください！」

響達が成二に頼む！

すると成二は

成二「わかった！ 頼んだぞ！」

狼「よし！ ついて来てくれ！」

三人は狼についていくと隊員用すべり台が設置された場所に来る！

奏「これは？」狼「隊員用のすべり台さ！ さあいくぞ！」

エレン「どうしてすべり台なの？」

狼「早くマシンスペースに着く為ぞ！」

こうして狼たち4人と4人の隊員がすばり台でマシンにスペース移動する！

マシンスペースにはオートバジンの他にライオトルバー専用バイクや移動用の車があつた。

響達は車に乗り込み、狼と残りの隊員はバイクに乗るとエンジンを掛けろ！

するとハッチが開き長い通路の先にワープゲートが出現する！

響「あれなに？」

隊員「ワープゲートです！しつかり捕まつてください！」

一斉にマシンが発進する！

響「えつ！ちょっと！」

マシンが急に発進したのでびっくりする響。

奏「ゲートに入るわ！」

エレン「どうなるんだろ？」

不安になる2人

マシンはゲートを通つた次の瞬間！いつも響達が見ている場所に出た！

響「あーここつて！」

奏「私たちが知つてている場所だわ！」

エレン「ワープって凄い！」

響達が驚いていると隊員が

隊員「うん？ 隊長！ あれを！」

狼「アイツらか！」

マシンから全員降りる。

エヴォルト「うおーーー！」

人々「きやああ！ うわああ！」

逃げ惑う人々を追うようにドラゴンオルフェノクとオクトパスオルフェノクの2体暴れていた

三人「あのがオルフェノク早く止めないと！」

狼「待った！ナンバー2、エヴォルトレベルは？」

隊員「レベル5です隊長」

響「レベル？」狼「感染度の事さ！アイツらは…倒すしかない！」

奏「助けられないの？」狼「残念だけど、あそこまで感染していたら無理だ！みんないくぞ」

狼と隊員はベルトを響たちはキュアモジャーレを取り出す！

狼は素早く変身コードを入力して【S t a t i n g · b y】と音声が出るとファイズフォンを閉じ斜めに構え叫ぶ！

狼「変身！」

叫んだ後ドライバーにセットして【c o m p l e t e】と音声がなり、ファイズに変身する！

三人「レツツップレイ！プリキュア・モジュレーション！」

三人は変身していくもの名乗りを上げてファイズに並ぶ！

隊員達「変身！」

【c o m p l e t e × 4】

ベルトのバッклを倒してライオトルパーに変身する！

メロディー「それは？」

ライオ「量産型ライダーシステムのライオトルパーです！隊長命令を！」

ファイズ「お前たちは左側の方を！俺たちは右側だ！無茶するなよ！」

ライオ「了解！」

素早くアクセルレイガンを取り出して、左側のオクトパスオルフェノクに向かって行く！

ライオ達「うお～！」

まず2人のライオがガンモードで打ち残り2人がブレイドモードで切り裂く！

オクトパス「グアアアア！」

オクトパスも反撃を開始して4人を吹き飛ばす！

ライオ達「うわあああ！」

メロディー「助けてあげないと！」

とメロディーが向むかひしたのをファイズが止める
ファイズ「アインのまじめ配達!!」ちよアインを倒す!!」
アイン

みんな！」

メロディーでも！」

リズム「ここは、あの人達に任せてみまようメロディー」

ヒロト： あの人達も戦士だし 大丈夫だよ」と！

4人はドラゴンオルフェノクに立ち向かう！

メロディーはあ～！」

卷之三

「アイズ」「あいやあ～！」

全員のパンチがドリゴンに炸裂するがドリゴンが放叫を上げて逆に

吹き飛ばされて、ノーブル以外地面には吹

ワード「ブックマーク」も、アドバタイジング

ファイズ「大丈夫かみんな！」

メロディー——なんとかね……ケツ！」

「……」

ギターリンクス

「シク！」トントンと叩きつけられた。

アリババ・ジャパン

「ア、アイス……たぐ！ しかたねえな！」イツで一気に決めてやる！」

メモリーをセットする…するとスコープが伸びて

【read】と音声が鳴りブーツにセットするーそしてファイズ

が鳴り

ファイズ「決めるぜ！来いよ！」ファイズはドラゴンを挑発する。

ドラゴンはファイズの挑発に乗つてしまい突進してくる！

メロディー＆リズム「危ない！え！」

ファイズ「セイヤー！」

ファイズは何とカウンター・キックで相手を蹴ると同時に相手を円錐型のエネルギーでロックしのだ！ドラゴンは衝撃でよろめく！

ファイズ「行くぜ！クリムゾンスマッシュ！おりやあああ…」

ファイズはそのままジャンプして、キックの体制に入り円錐型エネルギーの中に入り、まるでドリルのように相手を貫く！そして瞬間移動した後、地面に【スタッフ】立った！

そしてドラゴンからファイズのマークが現れた！だが！

ファイズ「なに！」

何とドラゴンはファイズのマークを破壊して、クリムゾンスマッシュを無効にしてしまったのだ！

ビート「ファイズの必殺技まで！」

ファイズはやれやれと首を振りマスクの中で困った表情をする！

ファイズ「ヤバいな…どうしようか？」

続く！

出動！ライオトルパーズ！オルフェノクの謎！（後書き）

next F a i z 激走！アクセルフォームの力とプリキュアのパワー！

激走！アクセルフォームの力！カイザとサイガ登場！（前書き）

お待たせ？しました！いよいよアクセルフォーム！カイザとサイガ
登場です！
ではstart up!

激走！アクセルフォームの力！カイザとサイガ登場！

ファイズ「つたく！しかたね～な！今度はコイツで勝負してみるか！」

ファイズはカメラ型パンチングユニット、ファイズショット[ミッショーンメモリーを差してグリップを出して握る！

ファイズ「メロディー！リズム！ビート！合わせるぞ！」

メロディー「えつ？何を？」

ファイズがコケてから言う！

ファイズ「必殺技だ！バカ！」

メロディー「バカって何よ！ひどい！」

怒るメロディー

リズム「まあまあ、メロディー落ち着いて！狼君もちゃんと言わないと駄目よ！」

ファイズ「悪かったな！とにかく技を合わせるぞ！」

リズム「わかつたわ！」

ビート「任せて！」

三人は必殺技の体制に入る！

一方のドラゴンは先ほどのダメージがある為動けない！

メロディー「奏ましよう！奇跡のメロディー！ミラクルベルティエ

！おいで…ミリー！」

リズム「刻みましよう！大いなるリズム！ファンタステイックベル

ティエ！おいで！ファリー！」

ビート「弾き鳴らせ！愛の魂！ラフギター口ツド！おいでソリー！」

メロディーとリズムはベルティエをビートはラフギター口ツド取り出してフェアリートーンをセットして

ビート「チーンジ！ソウルロッド！」

ビートがモードチーンジをした後三人は

三人「駆け巡れ！トーンのリング！」

メロディー＆リズム「プリキュア…ミコージック・ロンド…」ビート「プリキュア！ハートフルビート！ロック！」

三人のリングがドラゴンを固定する！

ドラゴン「ぐおおおおおおおおお…」

三人「今よ！」

ファイズ「サンキュー！行くぜ！グランインパクト…うお～！」
ファイズはファイズフォンを開いてボタンを押し閉じて【Excel charge】と音声が鳴ると同時に飛び上がりパンチ技のファイズショットで必殺技！グランインパクトを発動してドラゴンに強烈なパンチを叩き込む！

ドラゴン「がは！」

するとメロディー達が

三人「三拍子！ 1・2・3！ フィナーレ！」

とファイズマークが浮かぶと爆発し同時にポーズを決める！

メロディー「やつたわ！」

リズム「これでオルフェノクも！えつ…」

ビート「そんな！」

何とドラゴンは4人の必殺技に耐えきっていたのだ…しかも姿が変わっていて、より竜らしい姿に変わっていた！
そして放叫を上げる！

ドラゴン「ぐおおおおおおおおおん…」

ファイズ「おいおい！ウソだろ！グワア…」

ファイズはドラゴンのパンチを食らって吹き飛ばされてしまった！

メロディー＆リズム「狼君！は…」

ビート「危ない！ビートバリア…」

三人に尻尾が襲いかかってきたが…ビートがビートバリアを張り仲間を守る…

するとドラゴンは目標をファイズからプリキュア達に変えて襲う為にビートバリアに攻撃する！
ビート「ぐ…なんて強い力なの…」

メロディーとリズムはビートにバリアを張るパワーを送つてゐる為に動けないのだ！

メロディー「必殺技をあれだけ受けても倒れないなんて！くつ！」

リズム「どうすればいいの！」

ファイズ「せめてあれが完成していれば！グッ！」

ファイズは何とか立ち上がりフォンブラスターを使おうしたが、手に力がはいらない！さらに激しい攻撃でビートバリアにはひび割れが入つて来た！【ピキピキ】

ビート「ダメ！持たない！」

2人「くつ！」

絶対絶命のピンチ！

とその時！

?「そこまでだ！変身！」

【Stationing・by、complete】とファイズフォンより低い音声が鳴ると同時に？の正体！富岡成一がサイドバッシャーに乗りながらカイザフォンをドライバーにセットして変身しやつて來た！

カイザ「うあ～～！」カイザはサイドバッシャーの操作パネルを触りサイドバッシャーをバトルモードに変形させてドラゴンと激突してドラゴンを吹き飛ばして壁に食い込ませる…

ドラゴン「ぐおおおおおおおおおん！」

狼「兄貴！」

メロディー「成一さん？え～！」

リズム「成一さんも仮面ライダーだったの！」

ビート「その仮面ライダーは一体？」

カイザ「これはファイズのプロトタイプのカイザだ！今は俺専用スースとして使つていいんだ！ワ～ハハハハ！」

高らかに笑うカイザ！

メロディー「笑い過ぎ！」

ビート「笑つてゐる場合じゃないでしょ～！」

ビートはバリアを解除する！

リズム「もう！成一さんたら！」

カイザ「すまんすまん！」謝る成一

カイザ「俺は部屋にこもるのが嫌いでね！時々戦いに参加するんだ！」

ビート「ありがとうございます！成一さん！」

カイザ「いやいや大した事はない！ああそれと！」

カイザはサイドバッシャーをビーグルモードに戻して荷物入れから小さなトランクケースを取り出して、鍵を開けて腕時計型アイテム、ファイズアクセルを取り出す！

ファイズ「兄貴！それ完成したのか！」

カイザ「ああ！たつた今完成したんだ！せっかくだからコイツのお試しタイムだ狼！」

ファイズ「ああ！」

メロディーは呆れて抗議する

メロディー「腕時計なんかいらないわよ！もつと強い武器とか…」

抗議し始めるメロディーだがファイズはやれやれと首を振りながら、ファイズアクセルを左腕に装着して囁く！

ファイズ「ただの腕時計な訳がないだろ！コイツがファイズ強化アイテムさ！まあ、見てな！」

メロディー「へ？」

リズム「一体なにを？」

ビート「腕時計が強化アイテム？」

ファイズはファイズショットをしまいもう一度ファイズポインターにミッションメモリーを挿入してブーツにセットする！

メロディー「同じ技使う気なの！」

ファイズ「同じ？違うな！見てみな！」

リズム＆ビート「でも！」

カイザ「心配するな！そのアイテムは…マズい！動きだしたか！」

ドラゴンが動き始める！

カイザはサイドバッシャーをバトルモードに再び変形させてカイザグレイガンを持ち叫ぶ！

カイザ「時間稼ぎは任せろ！」

ファイズ「頼んだぜ兄貴！」

カイザは一斉射撃でドラゴンを攻撃して足止めをする！

カイザ「喰らえ！ いけ～！」

ドラゴン「ぐおおおおおおおおおおおん！」

ファイズは素早くアクセルメモリーをファイズフォンにセットする！すると【complete】と音声が鳴りファイズの胸の装甲が開いて両肩に移動し中身が丸見えになる！そして赤いラインがシルバーに変わり目が黄色から赤色に変わる！

ファイズは十秒間だけ通常の千倍の速さで動けるアクセルフォームにフォームチェンジしたのだ！

メロディー「姿が！」

リズム「変わった！」

ビート「一体？」

三人も驚く！

ファイズAF「これがアクセルフォームだ！ さあ！ 一気にケリを着けてやるぜ！」

ファイズAFはファイズアクセルのボタンを押す！ すると【Stop】と音声が入りファイズが消えた！

メロディー「消えたわ！」

リズム「まさか！ 有り得ないわ！」

ビート「見て！ オルフェノクが！」

見るとドラゴンからファイズマークが上がり青い炎と共に砂なつて倒れてしまった！

そしてファイズがアクセルフォームからノーマルに戻っていた。

ファイズ「ふう！」

決めるファイズ！

三人「どうなつているの！」

カイザ「ははは！これを見てくれたまえ！」

カイザがサイドバッシャーをまたビーグルモードに戻して映像を見せる！

三人はモニターを見るとそこにはファイズAFがファイズアクセルを押した後の映像が映っていた。ファイズAFは超速スピードでドラゴンに近寄つて格闘技を超速スピードで叩き込みトドメにアクセルクリムゾンスマッシュを連続で叩き込んだのだ！

ファイズAF「喰らえ！アクセルクリムゾンスマッシュ！ハア、トウ、ヤア～」

連續でクリムゾンスマッシュが命中してドラゴンは

ドラゴン「ぐおおおおおおおおおお！」

ドラゴンからファイズマークが出て青い炎があがり、ファイズAFのファイズアクセルは【three! two! one! Time out！】そしてファイズAFのアーマーが閉じて【Reformation】と鳴ると同時にアクセルメモリーフォンから抜く！メロディー「？これどういう事？」

リズム「瞬間移動？」

ビート「成一さん教えて！」

カイザがうなずき説明する。

カイザ「ファイズAFは通常の千倍の速さで動く事が出来る、超高速形態なんだ！だから私たちには見えなかつたんだよ」

メロディー「そうだつんだ！」

リズム「なるほどね～！」

2人は納得したがビートは一つ気になつていた。

ビート「ねえさつきファイズAFの腕時計からtime outって音声が出なかつた？」

カイザ「アクセルフォームは十秒間だけしか変身出来ないんだ！」

メロディー「どうしてなの？」

カイザ「アクセルフォームは確かに凄まじく速く動けるようになるがスースが変化したフォトンブラッドを制御しきれなくなるんだ。

まあ、十秒以上も使用は可能だが、自分自身をフォトンブレットを浴びて死んでしまう危険がある！だから限界が十秒なんだ！」

リズム「なるほどね」

ビート「力の使い方間違えたら危ない力か……大変！みんなあれを見て！」

ビートが指を差した方向を一斉に全員が見ると
ライオトルパー達が吹き飛ばされていた！

ライオ達「うわああ！がああ！」

ファイズ「おい！大丈夫か！」

全員が傷ついたライオトルパー達に駆け寄る！

カイザ「何があった！まさかオクトバスに！」

ライオ「いいえ！ちつ違います！ヤツですオクトバスは我々が片づけましたが！ガク！」

ライオ達は氣絶してしまった！

メロディー「しつかりして！ヤツって誰よ！」

リズム「成一さん！ヤツって？」

カイザ「最強かつ最悪なこの弟オルフェノク、Dだ！」

メロディー「D？」

リズム「どうしてわかるんですか？」

カイザ「この爪後だ！」

よく見るとライオ達全員同じ爪後があつたのだ！

すると奥からRことタイガーオルフェノクがニコニコ笑い？ながら
出てくる！

ファイズ「やはりお前だつたか！」

タイガー「あ～れ～？お人形さんかと思つたら～狼君だ～！遊ぼ～
よ～！」

まるで子供のように話しかけてくるタイガー！

ファイズ「テメエ～！よ～も俺のチームを！～ぶつ倒してやる～！」
怒りに燃えるファイズ！

一方メロディー達は思わず身震いする

メロディー「コイツ気持ち悪いわ～！一体何なのアイツ？」

リズム「子供なの？あれ？」

あまりの不気味さに震える2人

ビート「しつかりして！ただの演技よ！」

だがカイザは首を振り言つ

カイザ「違う！アイツは精神が何らかの理由で崩壊して、幼い子供みたいになつてゐるんだ！しかもアイツは戦いを好み散々残酷な事をしている！」

カイザはカイザグレイガンを構える！

メロディー「そんな！」

リズム「成一さんが言うんだから本当に危ないヤツなのかも！だつたら！」

ビート「とにかく！倒しましょ～！」

三人も戦闘体制に入る！

するとタイガ―は！どこからも無く、ファイズドライバーと同型のサイガドライバーを腰に装着して、ファイズフォンと同時のサイガフォンを取り出す！

カイザ「あれは！」

ファイズ「まさか！」

メロディー「狼君達と同じ！」

するとタイガ―は

タイガ―「ふふふ！遊んでくれるんだ～！…さあ～たつぱり遊ばせてもらうぜえええええ～！！！」

タイガ―はサイガフォンに319と入力してEnterを押す！

【Stationing・by】

タイガ―は不気味に笑いながら！

タイガ―「あはっあは！あは！あははは！変身～！」【comp let e】とファイズフォンと同じ音声を出して仮面ライダーサイ

ガに変身したのだ！

メロディー「あれは！」

ファイズ「奪われた帝王の仮面ライダーの一つサイガだ！」

続く！

激走！アクセルフォームの力！カイザとサイガ登場！（後書き）

next F a i z 激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！恐怖の力を持つ帝王！

【次回はお休みです！その代わりに仮面ライダー設定などをやります！】

お楽しみに♪

仮面ライダーファイズの設定ー（前書き）

ライダーの設定です！
では startup！

仮面ライダーファイズの設定！

仮面ライダーファイズ

スペックは全て原作と同じだがこの物語では、装着出来るのが犬上狼だけになっている！

なおファイズは登録した人物だけが変身出来る為犬上以外が装着すると【errrōr】と鳴り弾き飛ばされる！

マスクドライダーシステム三号機として開発されバランスに優れており、強化ツールがこれからも増える予定！
なお装着者の犬上狼は必殺技を使う時必ず必殺技の名前を言う癖がある！

またクリムゾンスマッシュを使う前にはほとんどの場合に回転蹴りのカウンター・キックから入る！
かつては犬上巧が変身していた。

仮面ライダーファイズアクセルフォーム！

原作同様ファイズアクセルのアクセルメモリーで変身するファイズ強化形態の一つで超高速形態！とてつもない超高速で相手に接近して連続攻撃を得意とする！

原作との違いは必殺技の名前が違うだけ

なお必殺技の名前はそれぞれの必殺技の前にアクセルが付く！

アクセルクリムゾンスマッシュ
アクセルスパークルカットなど

仮面ライダーカイザ

スペックは原点同様！

この物語ではファイズのプロトタイプとして制作されて、現在は富

岡成二の専用スーツとなつた仮面ライダーー二号機！

カイザはファイズよりも力があるが力が強すぎた為現在は成二以外は制御が上手く出来ないので彼以外が装着する事が出来ないようにプロテクトが施されている。必殺技を使う使う時正式名では無く、彼オリジナル名またはオリジナル技を使う！

ゴルドスマッシュ ゴールドスマッシュ！

カイザスラッシュ カイザクロススラッシュ！

カイザグレイガンを構え突入しながらクロススラッシュに切り変える彼オリジナルの必殺技！威力が通常の時と比べてかなり高くなる！

仮面ライダーデルタ

三島甲が変身する仮面ライダー初号機！スペックは原作同様だが今作オリジナル武装もある！

ファイズやカイザのプロトタイプで基本的には武装はデルタフォンとデルタムーバーを合体させた、デルタブラスター【本作オリジナル命名】

だけだつたが、後にパンチユニットでありファイズ／カイザショットのプロトタイプデルタショットが追加された！

他のドライバーと違い唯一誰でも使用が可能！

必殺技はルシファーズハンマー

デルタショットではデルタインパクト！

仮面ライダーサイガ

スペックや武器は原作同様！

エボルト【読み方ではエヴォルトとも言う】が奪取した天の帝王のベルト！

元々はファイズ、カイザ、デルタの強化ツール開発やテスト運用するためを作られた実験用のスーツだったが開発者の中から十分戦闘

でも使えると言われ、戦闘用に改修したもの…プロテクトを駆ける前にエヴォルトに奪取されてしまった！

スペックはファイズを上回っている！

なお装着者のタイガーは精神崩壊して自我がほとんど無い【演技】にも関わらず！凄まじい戦闘能力を出せる模様！

必殺技は

コバルトスマッシュ
スカインパクト
サイガスラッシュ
の3つ！

仮面ライダーファイズの設定！（後書き）

デルタの設定を先に出したのは次話で登場するからです！
え？ オーガは？

オーガはもう少し後に登場する予定です！ 設定と説明はファイズブ
ラスターと一緒にやります！
ではまた！

激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！天の力を持つ帝王-（前書き）

三連休なのでゆっくり書けました！
では start up！

激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！天の力を持つ帝王！

メロディー「あれがサイガ！」

リズム「なんなの？この感じ！」

ビート「凄く威圧感を感じる！」

メロディー達は戦闘体制を構えるがサイガの不気味な威圧感に恐怖を感じていた！

サイガは手をパンパンとし始めて

サイガ「さあ～！キラ～タイム～」

と言い走つてこちらに向かつてくる！

カイザ「来るぞ！」

ファイズ「このやろ～！」

ファイズはフォンブラスター／ブラスターモード、カイザはカイザグレイガンで連射を開始してサイガの動きを止めようとする！だがサイガは背中のフライングアタッカーを起動して空を飛び回避する！

三人「飛んだわ！」

ファイズ「コイツ！逃げる気か！」

サイガ「逃げる～？バ～カ！死ね死ね死ね死ね死ね死ね～み～ん～死んじゃえ～！！」

サイガはフライングアタッカーのグリップをこちらに向けて銃をムチャクチャに乱射してくる！

【ビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューンビューン】

ファイズ＆カイザ「みんな！避ける！」

全員は何とか回避したり、建物の壁を利用して回避する！

しばらくしてサイガはフライングアタッカーの乱射を止める！

サイガ「あ～れ～？消えちゃた～？」

こちらは回避したメロディーとリズムそしてカイザ

メロディー「あいたたた！もう！なんてムチャクチャなの！」メロ
ディーには飛び散った破片が頭に当たって、たんごぶが出来ていた！
リズム「メロディー大丈夫？」

メロディー「うん！何とかね もうアイツ絶対タダじやおかないと
だから！」

半分怒り気味のメロディー

カイザ「あんまり怒るな！こんなのはアイツにとつては準備体操に過ぎないだからな！」

2人「ウソー！！あのが準備体操なの！」
と驚愕してげんなりする2人

カイザ「もしもしそう 大丈夫か？」

一方ファイズとビートは

ファイズ「ちくしょう！」のヤツ！フライングアタッカーを強化して
いたのか！」

ファイズは悔しがる！

ビート「厄介な武器ね！あれって一体何なの？」ファイズ「ああ！
あれはファイズの強化ツール開発する最データを取る為に開発された武器フライングアタッカーだ。

もつとも試作品段階ではあんな連射力は無かつたが…まさかあんなにパワーアップしていたなんてな！く！」

サイガ「オラオラオラオラオラオラオラオラ！」

再び乱射するサイガ

ビート「厄介ね！どうしよう？」

【→】突然ジャストファイズの着メロがファイズフォンから鳴り
カイザから連絡が入る！

ファイズ「兄貴？こんな時に何だよ！」

カイザ「この状況を打倒出来るいいアイデアがつかんだぞ～狼！」

ファイズは嫌な予感がすると思いながら

ファイズ「兄貴まさかあれやるつもりじゃー?」カイザ「そのまさかだ!熱血捨て身戦法で行くぞ!」

ファイズ「おい!それだけは辞めてくれ!つてちよつと!」

電話が切れてしまつ!

向こうにいたメロディーとリズムは少し戸惑つた表情をした!

メロディー「どうしたのかしら?」

リズム「さあ?」

2人は?になつていた。

一方ファイズは頭を押さえながら

ファイズ「最悪だ兄貴のヤツ熱血捨て身戦法やるつもりだ!」

ビート「熱血捨て身戦法?ナニソレ?」

ファイズ「兄貴はピンチになると危険な戦法使いたがる悪癖があるんだよ!あ~も~最悪だ~!~!」

ビート「ナニソレ!最悪じゃない!」一方のカイザは右手にカイザグレイガンを!左手にフォンブラスターを握りしめていた!

もちろんメロディー達が止めようとしている!

メロディー達「無茶しないでください」

だがカイザは!

カイザ「大丈夫だ!任せておけ!うおおおおー行くぞ!」

2人「きやあ!」

カイザは2人を跳ねのけてサイガに向かつて走りながら乱射を開始する!

カイザ「うおおおお!」

【ビューンビューンビューンビューンビューン】

サイガ「う~い?な~ん~だアイツ?」

とりあえずサイガは避ける!

カイザ「逃がさん!トオ!」

サイガは2つの武器をドライバーに戻してカイザポインターをドライバーから外してミッションメモリーをセットして放り投げ自分も

右足からジャンプキックの体勢に入り飛んだ！

サイガ「う~い？」

メロディー「何をする気！」

ファイズ「必殺技を使う気だ！」

3人「え~！！あんな体勢で！」

そんな事をよそにカイザが放り投げたカイザポインターが見事に右足のブーツにセットされ、カイザはカイザフォンをスライドさせてボタンを押し【Exceed charge】が発動した！

カイザ「うおおおお！喰らえ！男の魂の必殺技！ゴールドスマッシュ」

正式名「ゴールドスマッシュ」がサイガに×印し型円錐にロックされてそのまま向かう！

サイガはカイザの攻撃を見て

サイガ「な~ら~！必殺技~いくよ~！」

サイガはサイガフォンを開いてボタンを押し閉じて【Exceed charge】を発動させた！

メロディー「向こうも同じ！」

サイガ「必殺技~！！」

サイガは必殺技スカイインパクトを発動して高出力エネルギー弾を発射する！

そして2つの必殺技が空中でぶつかり合い激しい火花が発生した！

ファイズ「うお！すげー！」

カイザ「く！なんて力だ！」

そしてカイザが力負けして弾き飛ばされて壁に大の字で顔から激突してから地面に転がり変身が解除される！

メロディー「成一さん！」

成一「くそ~！後もう少しだったのに~ガク！」

とそのまま氣絶してしまつ！

ファイズ「兄貴~！！」

ビート「成一さんがやられちゃつた~どうじよつ~！」

メロディー「でも今の私たちじゃあ攻撃は届かないし！」

リズム「せめて空を飛べれば！」

ファイズ「空を飛ぶ？ それだ！ なんで早く使わなかつたんだ俺は！」

と言い、ファイズはファイズフォンを取り外して3824と入力し

【Jet sliger come closer】と音声が鳴る！

メロディー「一体何を入力したの？」

ファイズ「すぐわかるさ！ 来たか！」

ワープゲートが空中に開き大型マシン、ジェットスライガーが一機やつてきた！

ファイズ「うん？ 一機つて事は！」

甲「援軍にきたぞ！」

三島甲だつた！ 彼はパイロットスーツを着てジェットスライガーに乗つていたのだ！

リズム「あれは何なの？ それとあの子誰なの？」

ファイズ「あの大型マシンはジェットスライガーって言つてスマートブレインモーターズが開発した仮面ライダー専用特殊車両さ！ あと1つに乗つているのは俺のダチでライバルの三島甲さ！」

甲はジェットスライガーを着陸させて

甲「よろしくね！ 僕は三島甲だ！ うわあ！」

甲はジェットスライガーから降りる時に引っかかつてこけてしまつた！

甲「いたたた！」

メロディー「大丈夫？」

甲「うん大丈夫大丈夫！ さてと！ 戦いますか～～！」

リズム「えつ！ あなたまさか！」

ビート「仮面ライダーなの？」

甲は立ち上がりつて

甲「まあね！ うちの司令官が何か勝手にいなくなつたつて言うから来てみたんだけど、ボロボロになつた上にサイガまで登場なんだね。 やれやれ！」

甲は半分呆れ顔になりながらジエットスライガーの荷物入れからデルタトランクボックスを取り出して、中からデルタドライバーとデルタムーバー、デルタフォン、デルタショットを取り出してデルタフォン以外をドライバーに取り付けて腰にドライバーを装着する！

サイガ「だ～れ～？」

甲 答える義理はない!! 行くぞ!! 変身!!

甲が握ったデルタフォンの電源を入れて変身と叫び、デルタフォンから変身音が響きわたり、デルタムーバーに差し込むする！すると【complete】と音声が流れ甲は仮面ライダー・デルタに変身する！

メロディー「その仮面ライターは?」

元川夕一 倆画テイ夕一元川夕一!! 行くぞ狼!!

一六一六 ああ! 乗るか!」

2人はジエットスティガーに乗り空中に浮く！

サイガ「マゾズイ！みんな死んじやえ死

再びフライングアタッカーを連射し始める！

「ファイズ、ぐー！この野郎！」

「デルタ、ムチャクチャするヤツだな！」 2人は神技の腕前でサイガの乱射を回避する！

メロディー「リズム！ビート！私たちは新技で地上から援護します！」

リズム「オッケー！」

メロディー達は手をパンと合わせ前に突き出して叫ぶ！

メロディー「プリキュア！メロディーショット！ハア！」

ピンク色の音符が衝撃波に鳴りサイガに向かって飛んで行く！

サイガ「おつとつと！」

かわすサイガ！

リズム「プリキュア！リズムシンフォニー！えい」

今度は白の音符が衝撃波になつてサイガに向かつて行く！

サイガ「おつとつと！」

なんとかかわす！

ビート「プリキュア！ビートソウル！いけ！」

青い音符が衝撃波になつてサイガに向かいサイガはまたかわすがバランスを崩されてきた！

サイガ「マ～ズ～イ！ど～し～よ～かな～？」

ファイズ&デルタ「今だ！」

ファイズとデルタはチャンスと踏み切りフォトンミサイルを同時に発射する！

サイガ「やつば～い！な～んてね！」

サイガはフライングアタッカーの連射でフォトンミサイルを全て打ち落としてしまった！

ファイズ&デルタ「なに！」

そしてサイガは連射でジェットスライガーを攻撃する！

ファイズ「くそ！」

デルタ「なんてヤツだ！」

メロディー「そんな！」

リズム「もうこれ以上手がないわ！」

ビート「どうすれば！」

サイガはもう一度必殺技を使おうとする！

サイガ「さあ～終わりあれ～電話だ～！」

突然サイガフォンに電話がかかってきたのでサイガが出る！

サイガ「も～し～も～しあつ兄ちゃん！」

アーク「なに道草しているのだ！早く戻つて来い！最愛の弟よ！」

アークからだつた！

サイガ「はい」

電話を切りサイガは
こう言つてきた！

サイガ「ゴメン！お遊びおしまい！バ～イ～バ～イ～」

サイガはその場から帰つてしまつた！

ファイズ「まちやがれ！」

ファイズはフォンブロスターを素早く取り出して打ちまくる！だが
一発も当たらなかつた！

ファイズ「ちくしょう！ちくしょう！ちくしょう！ちくしょう！」

フォンブロスターが弾切れになりデルタが止める！

デルタ「狼！落ち着け！もうヤツはいない！」

サイガはもうどこにもいなかつた。

メロディー「助かつたのあたし達？」

リズム「でも…」

ビート「完全な敗北ね…くつ！」

そして雨が降つて来て戦士達を濡らす！

ファイズ「ちくしょオオオオオオ！」

ファイズ達は苦い敗北を味わい引き上げたのだった。

続く！

激突！ファイズ&プリキュアVSサイガ！天の力を持つ帝王！（後書き）

next Fainz 狼達の世界の世界と猛特訓でパワーアップ！

狼達の世界の崩壊と猛特訓でパワーアップ！（前書き）

いつもより短めです。

理由はレッツゴー仮面ライダーのリメイクを制作し始めたからです。
ではstart up!

狼達の世界の崩壊と猛特訓でパワーアップ！

次の日の夕方！狼達はスマートの実戦トレーニングをしていた！フ

アイズは三人と組み手をして戦っていた！

ファイズ「ハア！トウ！ヤア！どうしたそんな物か！」

メロディー「まだまだよ！」

リズム「負けないわ！」

ビート「強くなる為に！」

成一「うむ！その息だ！」

俺たちが何故組み手をしているかつて？

時間を一旦戻そう！

その日の授業を受けて昼休みの事だった

4人はベンチで昼食を食べていた。

狼と響は昨日がよっぽど悔しかったのか弁当をやけ食い氣味に食べる！

狼「ひくしょう！サヒガのヤフ次あつたやら」コンビニの焼き肉ヒレカツ弁当の焼き肉を口一杯にほうばりながら話す。

響「ぜつたやいたおしいてあげやるんだきやら！」同じく弁当を食べながら。

奏「2人ともお行儀悪い！食べる時は喋らないの！」

【パン！パン！】

奏がどこからもなくハリセンを取り出して2人の頭を叩く！

2人は頭を押さえながら

狼「いつてくな！なにすんだよ！つてお前どつからそんな物を！しかも吹いちまつたじやないか！」食っていた物は吹き出しました。

奏「さつき拾つたの」二コ二コしながら

狼「お前なぐりいて！」

響「あたたた！奏～痛いじゃない！ゲホゲホ！」逆に飲み込んで
ムセた。

奏「2人のお行儀が悪いんです！」顔が凄く怒っている
2人「うつーすみません…」

エレン「アハハ…」冷や汗が出ていた。

しばらくして全員昼食を食べ終わり響が狼に前から気になっていた
質問をする

響「ところどさあ～狼君ってどこから転校して来たの？」

狼「俺はこの世界から転校して来たんじゃない。元々別の世界にいたんだ。
」

三人「やつぱり！狼君も別の世界から来てたんだ！」

奏「別の世界の学校からどうしてわざわざいっしに転校して来たの
？」

狼は重苦しく話した。

狼「俺の前の学校はない…俺の世界はもう無いんだ。
三人「えっ！どういう事？」

狼「消えたんだ。いや正確には…滅びた！Zが反乱を起して帝王
のベルトを奪つた直後にオーラに逃げ込んで俺とスマートブレイン
は別のオーラに巻き込まれて助かつたが」

響「そんな事があったなんて…ごめん！嫌な事聞いて

狼は首をふり優しく言う

狼「いや！帰つてすつきりしたよ！ありがとうな！」

狼は三人との戦いを共闘した影響か女の子への苦手意識が少しづつ
無くなっていた。

奏「しかしながらこは反乱をしたの？」

狼「俺にもわからない。いきなりの反乱だつたからな。」

エレン「ひどいオルフェノクね、こつて…」

しばらく沈黙してから狼は

狼「悪いな重苦しい話しをして…さて…運動でもするか…」狼は
明るく話す！

響「え～食べたばかりなのに～！」

奏「お腹壊すわよ～」

エレン「止めておいたほうが…」

狼「冗談だつて！ハハハ！」

しばらくみんなで笑い合い

狼「あつそれと今日スマートで戦闘訓練やるから来ないか？もちろん部活終わった後だけど…」

響たちは互いに顔を見て相談し三人は

響「いいよ！あたしやる！」

奏「昨日のような事はもう嫌！」

エレン「私たちもつと強くなる為にやるわ！」

狼「よし！じゃあ部活後な！あつそれと南野さん…」

奏「奏でいいわよ その方が呼びやすいから」

狼「じゃあ奏…後でスイーツ部行つていいかな？俺昨日ケーキ食べ損ねたし」

奏「オッケー ジャあ狼君と響とエレンそれとスマートの分作つておくね

それと響今日バスケ部の助つ人でしょ？」

響「あ～忘れてた～！！ありがとう奏～！」

奏「どういたしまして！」

エレン「でも奏なんで響の予定を知つていいの？」

奏「さつき先生から伝言頼まれたの 韶つたらよく予定忘れるからつて」

響「うう～… なにも言えなかつた。

まあ、こんな感じで放課後、俺とエレンはスイーツ部の新作ケーキを食べに来ていた。部員は今日は稽古や習い事がある為忙しいのでいないらしい。

奏「はいどうぞ狼君

狼「お～！！上手そうだ！いただきま～す！」

狼は目を輝かせて奏のカツプケーキを一口切り食べる。

奏「どう？おいしい？」すると狼は顔がホニヨーンとなり

狼「ウマ～～～～イ！めっちゃうまいやん！」興奮すると関西

弁出ます！

と言いあつという間に完食してしまった！

奏「良かった まだあるからどうぞ」

狼「マジ！やつた～！」

つと俺はカツプケーキ10個たいらげてしまった。

エレン「狼君いくらなんでも食べ過ぎかと思つけど…」ケーキを

一口食べながら言った

狼「大丈夫さ 後で訓練で動きまくってカロリー燃やすから～あ～

うまかつた～！！」

2人「狼君つて響に負けないくらい食いしん坊なんだ。」狼を見て思つ2人

狼「どうしたんだ？2人とも？」

2人「なつ何でもないわ！」

狼「？」

この後俺達は奏を手伝つてカツプケーキを大量に作り全員でスマートに向かつた。もちろんさつき作ったカツプケーキを沢山持つてそして今は俺は三対1の組み手を終わり次の訓練を発表した。

ファイズ「よし！みんな！次はそれぞれ1対1で組み手するぞ！組み合わせは俺とビート！兄貴はメロディーと～甲はリズムでやつてくれ！」

ビート「わかつたわ！」

リズム「オッケ～」

メロディー「よ～し！頑張ろうみんな！」

2人「うん」

甲「よし～さあやるか！」

成二「何で俺も？」

ファイズ「運動と教訓の為だよ兄貴！得意だろ？」

成二「まあな！さてやりますか！」

2人はカイザとデルタに変身する！

ファイズ「さあ！特訓開始だ！」

続く！

狼達の世界の崩壊と猛特訓でパワーアップ！（後書き）

next F a i z ライダー対プリキュア！覚醒する力と新たなライダーシステム！

次回は未定です。

レツッゴーのネタ作り始めたので、しばらくは更新出来ないかも…

狼「作者さんよ！ほどほどにな！無理しないでくれよ！」

ありがとう狼君頑張つてレツッゴー仮面ライダーのリメイク頑張ります！

では！

ライダー対プリキュアー特訓と新たなライダーシステム！オーガ降臨！（前書き）

お待たせしました～！いよいよオーガ登場で～す！新ライダーも出来ればミコーズ【正体がわかつたら】と一緒に出す予定なのでお楽しみに～！
ではstart up！

ライダー対プリキュア！特訓と新たなライダーシステム！オーガ降臨！

1つ目の訓練室にはカイザとメロディーが入り特訓を開始していた！

カイザ「よし来い！」

メロディー「あ！」

メロディーはパンチやキックで果敢にカイザを攻める！
しかしカイザはいとも簡単に避けてしまいカイザには一発も当たらなかつた！

しばらくして

メロディー「はあはあ！何で当たらないの！」

カイザ「君のパンチやキックの動きや身体能力はいい！だが君の攻撃は直感と感覚が遅すぎるんだ！だから相手の動きをよく見てもつと速く攻撃してみろ！」

メロディー「わかつたわ！」

メロディーはさらに速く動きパンチやキックを繰り返して攻撃する！するとカイザも同じように動き対人する！

カイザ「いいぞ！その調子だ！」

メロディー「はい！あ～！」

激しくぶつかって行く中メロディーは

メロディー「何だろうこの不思議な感覚？」

と思いながら戦うのであった。

一方その隣の第2訓練室ではデルタとリズムが戦っていた！

リズム「はあ～！えい！」

リズムの攻撃はデルタに命中しているが何故かデルタは余裕で受け止めてしまう！

リズム「はあはあ～！攻撃は当たっているのにどうして甲くん平気なの？」

デルタ「君は2人に比べて力が少し弱いんだ。」

リズム「えつ？でも私メロディーやビートといっしょに戦う時は力がそんなに弱くないわ！」

デルタ「確かにメロディーやビートと息を合わせてる時は強いかもしない！でもそれはメロディーやビートの分が君を補っているに過ぎないんだ！」

リズム「そんな～！私どうすればいいの？」

落ち込むリズム

デルタ「う～ん。」

悩むデルタ！すると名案がひらめく！

デルタ「そうだ！今から僕が君のパワーを上げる特訓を手伝ってあげよう！」

リズム「えつ本当にありがとう～でもどうやって？」

喜びながら？になるリズム

デルタ「これを使つんだ！」

デルタは音楽プレイヤー内蔵型ラジオを訓練室の棚から取り出して来た。

リズム「ラジオ？それで何をするの？」

デルタ「これである音楽を聴いてもらひながら格闘技の練習をしてもらう！君たちは確かハーモニー・パワーを高めるとパワーが上がるんだよね？」リズムはうなずく！

デルタ「ようするにハーモニー・パワーを常に出来るトレーニングつて事さ！」

リズム「わかつたわ！」

デルタ「じゃあミュー・ジックスタート！」

すると軽快なミュー・ジック【ゲキレンジャー】の修行の時に出たヤツがラジオから流れる！

リズム「え？ナーフレ？」

デルタ「さあ！リズムに合わせて！123はい！」

デルタが音楽に合わせて格闘技の手本を見せる！

デルタ「はつ！はつはつは～！」

リズム「こつ？」

リズムも動きを真似する。

リズム「はつ！はつ

はつは～！」デルタ「そつそつーその調子だ！」

リズムはこう思いながら動いた。

リズム「なんか楽しいこれならやれるわ！」

と音楽に合わせての練習を開始を始めたのだった。

こちらは第3訓練室

ファイズとビートが激しい格闘技で戦っていた！

ファイズ「うお～！」

ビート「はあ～！」

激しくぶつかり合う2人！しばらくして

ファイズ「はあはあ～よし～まず格闘戦は合格だ！次の訓練行くぞ

！」

ビート「わかつたわ！次は何をするの？」

ファイズ「次はコイツらを使って訓練だ！」

ファイズが合図を出すとショルターが開いて中からXT-1の改良型で最新型のXT-2が複数出てくる。

ビート「これって！あの時のロボット！」

ファイズ「の最新型さ！あのロボットはコイツらのプロトタイプでコイツらが完成型なんだ！」

ビート「へ～ それでどんな特訓をするの？」

ファイズ「空中戦を鍛えるトレーニングさ！かなりキツいぞ～！飛ぶ準備をしておけよ！」

ビート「え？ キツい？ 飛ぶ準備？ どういう事？」

すると第3訓練室の重量が無くなリファイズとビートが浮かぶ！【

ロボット達は固定されている為浮かばない】

ビート「何で無重力なの～！」

ファイズ「空中戦の感覚をつかむ為に無重力にして訓練するのさ～！

来るぞ！」

ロボットからペンキ弾が発射される

バー「ちよつと待つて～！まだ心の準備が～～～」慌てたバーの顔にペンキ弾が見事に命中する！

「アーティザンキ弾食らつて怒るー」

「ニエーちよーと、狼くんするいわよ自分だけマスクしている……」

ファイズ「この訓練マジキツいからな！ 気をつけるよ

付いたまま言つ

「……何でヘンキ弾使ったの？」「…………」

卷之三

ファイズ「ペンキ弾を使うのは敵の攻撃の重みを感じる為だ！」と

卷之三

ビート「わかつたわ！行くわよー！」

そして約一時間後

メ田元イリ一也え世えりみづす「やはり過ぎて疲れた」

デルタ&リズム「ううん！楽しかった
」
二コ二コ笑顔の2人

ファイズ「ふう！疲れた！」

綺麗になり休憩室で

奏がカツプケー キを出して皆に見せる

響一おー」「目がキラキラ!

狼
一
うまそ^うう！

【うん！甘い物好きじゃないけど試しに食べてみるか】

全員「いただきます」

みんな奏のケーキを食べてホーリーとなる！

甲「うま～い甘い物嫌い治つた～！」 何故か治つた？

成二「うおおおおおおおおおおん～ウ～マ～イ！」 感激で涙を

流しながら食う～！

奏「良かった」 二口二口笑顔

そして響以外食べ終えて成二が訓練の内容と新しいライダーの説明を始める

成二「訓練は順調だからこのままでいこう～！」

奏「はい」

狼＆響＆エレン「げつ～」 嫌そうな顔をする三人

成二「まあいいだろ～。もう一つ実はな新しいライダーが間もなくロールアウトするんだ。」

全員「新しいライダー？」

成二「開発コードネーム666～名前はティガンマだ！イーシャルはだ」

奏「ティガンマ？」

成二「ファイズのこれまでのデータを生かして新たに設計された新ライダーシステムだ！試作品もすでに出来ているぞ！」

アタッシュケースを取り出して中身を見せる～中にはスライド式の携帯電話ティガンマフォンとドライバーが入っていた。狼「武器はないのか？兄貴？」

成二「まだ開発中だ。だがまもなく試作品が完成するぞ」

エレン「これわたしたちでも使えるの？」

成二「ああ～君たちと我々が誰でも使えるようにプログラムは…とまさにその時！」

【ブオーンブオーン】とサイレンが鳴る

狼「何だよ！突然！」

響「食べている途中なのに～！」

アナウンス「加音町南エリアでネガトーンおよびオルフェノク反応

確認！繰り返す！」 アナウンスを繰り返す！

エレン「南側で？」

狼「つたく！しかたね～な！行くか！」

成二「俺は司令部に戻る！頼んだぞみんな！」成二はエレベーターに乗つて司令部に戻る。

そして狼と甲はパイロットスーツを着てジェットスライガーに乗り込み 韶たちはオートスマートと言う装甲車に乗り込む！オペレーター「ワープゲートオープン…ジェットスライガー！オートスマート！緊急発進！」

狼&甲「了解！」

ジェットスライガーとオートスマートは専用通路を走り出してワープゲートをぐぐり抜ける！

そして南町の現場に到着して全員ビークルから降りてみる。そこにはトランペットネガトーンが暴れていた。

バスドラ「来たな！プリキュアにライダー共…いけ～ネガトーン…」

トランペット「ネガトーン…」

狼「またお前らか！【オルフェノクがいない？どういう事だ？】」

響「いいかげんしつこいわね～！みんな行くよ！」3人はキュアモジューレを構えて叫ぶ！

3人「レツツプレイ！プリキュア・モジュレーション！3人はキュアモジューレの底を押す！

そして

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ～！キュアメロディ～！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ～！キュアリズム～！」

ビート「爪弾くは魂の調べ～！キュアビート～！」

3人「届け、3人の組曲～スイートプリキュア～！」

3人は華麗にポーズを決める！

狼「しゃあ～こっちも行くぜ～！」

甲「ああ～！」

2人はドライバーを腰に装着してそれぞれフォンを取り出し狼がフ

オンに555とコードを入力して2人が構えて

2人「変身！」

【Stationg·by! complete×2】

と鳴りファイズとデルタに変身する！

ファイズ「それじゃあ！パーティータイム…！あぶねえ！」光弾が飛んで来たのでデルタとブリキュア達全員が伏せる

メロディー「何なのよ～！」

リズム「見てオルフェノクよ！」

リズムが指を指す方角からオルフェノクが歩いて来た。

ビート「！ファイズに似ている！」

そのオルフェノクは確かにファイズによく似ていた。

ファイズ「くつ！てめえ！やつと現れやがったな！」

デルタ「裏切り者！絶対にお前だけは許さないぞ！」

ファイズ達の前に現れたのはアークオルフェノクだった！アークはオーガフォンをフォンブラスターにしてこちらに向かながら歩いて来る。

Z「久しぶりだな～！狼くん！甲くん！」

Zは話しながらドライバーを装着してオーガフォンに000とコードを入力して【Stationg·by】と不気味な音声と共に

Z「変身！」

【complete】となり金色のフォトンブレイブを出しながら

オーガに変身する！

ビート「変身した！あいつは何者なの！」

ファイズ「裏切り者のオルフェノク！Zだ！」

メロディー「裏切り者のオルフェノク！あれが！」

オーガはミッションメモリーをオーガストライザーと言う剣を取り外してメモリーをセットする！【Ready】と鳴りオーガは剣を引きずるようにしながら歩きこづ言い放つ！

オーガ「処刑の始まりだ！」

続
<
!

ライダー対プリキュア！特訓と新たなライダーシステム！オーガ降臨！（後書き）

next Fair VS 地の帝王そして振り切るぜ！

次回はスペシャルゲストで何故か仮面ライダー・アクセル登場です。
お楽しみに～

VS オーガ&ネガトーンー地の帝王と振り切るハンジンヒルマーの正体ー（前）

いよいよ正体がわかつたキュアミューズの登場です。

今週の分だけは見ましたがセリフがまだ少ないので自分流にアレンジしつつオリジナルストーリーのこの作品に合わせて登場させていただきました！

どうか暖かい日で見守ってください

あくまでもこれはオリジナルストーリーです

そしてスペシャルゲストの仮面ライダー「アクセル」と照井竜も登場です
では start up!

VSオーガ&ネガトーン！地の帝王と振り切るハンジンヒースの正体！

ファイズ「オーガは俺たちがやる！三人はネガトーンを頼んだぜ！」
メロディー「わかつたわ！いくよリズム！ビート！つてオーガつて
誰？」

ずっとこけるファイズ

ファイズ「アホ！見たら分かるだろ！あいつだ！あの金と黒いヤツ
！」

メロディー「ああ！なるほど～！つてあたしに向かってアホって言
つた～！」

口喧嘩を始める2人

リズム＆ビート「喧嘩は後で！」

ファイズ「ハイハイ！わかつたよ」

メロディー「なんであたしが…」

トランペットが襲いかかって來たので三人は
メロディー「わたしあホじやない！」

2人「はあ～！」

三人はトランペットに攻撃を仕掛ける！

メロディー「狼くん！後で話し合いよ…」

ファイズ「つたく！しかたね～な」

オーガ「ふん！バスドラよ！そいつらは任せたぞ」

バスドラ「おう！」

この後オートバジンがバトルモードの状態でワープゲートから現れる！

ファイズは素早く近寄つてファイズエッジを引き抜き//シションメモリーをセットする。

【Ready】

と鳴りエッジが赤く輝く！

ファイズ「オートバジンプリキュア達を援護しろ！」

オートバジンが頷きプリキュア達の元へ向かう！

ファイズ「よし行くぜ！甲！」

デルタ「ああ！」

ファイズ&デルタ「うおおおおおおおおおおお！」

2人は凄まじい気迫を出してオーガに向かう！

オーガ「来い！オオオ！」オーガも凄まじい気迫を出してライダー同士が今激しい戦いを始める！

まずはオーガがオーガストライザーでファイズを斬りつけようとするがファイズはファイズエッジで受け止めて弾き飛ばす！

オーガ「む！やるな」

ファイズ「今だ！やれ！」

デルタ「任せろ！」

デルタが蹴りを入れオーガがひざまずき腰からデルタショットを取り外してミッショントメモリーをセットして左手で握る！

【Ready】

そしてデルタはデルタフォンを外して叫ぶ！

デルタ「ヒョック！」

【Excel charge】

デルタ「ハアアアアア！」

デルタはグランインパクトをオーガに叩き込む！だが…

オーガ「ふん！」

デルタ「うわああ！」

ファイズ「のわああ！」

オーガはいとも簡単にグランインパクトを跳ね返してしまった！デルタはその勢いでファイズと共に吹き飛ばされて壁に激突する

デルタ「くそ！なんでだ！確かに手応えはあったのに！」

ファイズ「なら同時攻撃だ！」

2人は立ち上がりファイズはファイズエッジからミッショントメモリーを引き抜きファイズポインターにセットする

【Ready】

そしてファイズはポインターをブーストにセットしてファイズフォンを開いてボタンを押し閉じる

【Exceed charge】

デルタはミッションメモリーを抜いてデルタショットを戻し デルタムーバーにミッションメモリーをセットする

【Ready】するとムーバーがスコープモードになつた！

デルタ「チェック！」

【Exceeded charge】

デルタも必殺技の体制に入る！

2人「いくぜ！ダブルライダー キック！」

ファイズはクリムゾンスマッシュ！

デルタはルシファーズハンマーを発動させて飛び上がりオーガに放つ！

ファイズ「はあああ」

デルタ「うおおお！」

だがその時！オーガの周りに邪悪なオーラが発生して必殺技が弾き返されてしまつた！

2人「なに！うわああ！」

2人は再び吹き飛ばされて壁に激突してしまつた！
果たしてなにが起つたのか！

一方のメロディー達は余裕でトランペットネガトーンを倒していた。

三人「プリキュア！スイートハーモニー キック！」三人は見事な連係キックでネガトーンを空中に蹴り上げる

そして空中にいたオートバジンがバスター ホイールを連射して地面にトランペットを叩きつける！

トランペット「ネガトーン！」

メロディー「身体軽い！」

リズム「特訓のおかげね！」

ビート「うん」

バスドラ「何故だ！プリキュア達の動きが良すぎてネガトーンがちつとも歯が立たない！なぜだ～！」

焦るバスドラ達

メロディー「特訓したからよ！よ～しみんな行くよ～」

リズム＆ビート「わかつたわ！」

メロディーはヒーリングチエストを取り出して掲げる！

三人「出でよ、全ての音の源よ！」

掛け声でフェアリートーン達を呼び出して力を注ぎ、クレッションドローンを召喚する！

三人「届けましょ～、希望のシンフォニー！」

そして

三人「プリキュア・スイートセッション・アンサンブル！」掛け声で3人が両腕をクロスしたままクレッションドローンの金色の光の炎と一体化して飛行して突撃していく！

三人「はあああ～！」

そして

三人「フィナーレ！」

と共にネガトーンを浄化したのだ

ネガトーン「！！」

そしてハミィがジエットスライガーの荷物入れから飛び出して音符を浄化する。

ハミィ「ニヤツプニヤ～ブ～」

メロディー「ハミィ！あんだどうから乗ったのよ！」

浄化を終えたハミィのほっぺたを 引っ張るメロディー

ハミィ「ハミィはスマートに呼ばれて帰りきこの乗り物で送つてくれるつて言つから偶然乗つっていたのニヤ～」

メロディー「じゃあ狼くん達がメイジャー・ラングやマイナー・ラングについても知つていたのも」

ハミィ「ハミィが教えたニヤ～メロディー痛いニヤ～！」

メロディー「大事な事はもつと前から早く言いなさい」
ほっぺを持ったまま両手で振り回すメロディー

ハミィ「ニヤ～！目が回るにや～！」

ビート「メロディー落ち着いて！ハミィが死んじゃう！」

リズム「ダメ～！」

メロディー「ぼふ！」

メロディーはリズムのハリセンで頭を殴られた！

メロディー「いたたた！」頭抑えて目を回す。

リズム「メロディーごめんね ハミィだいじょうぶ？」

ハミィ「ハミィはだいじょうぶだニヤ～！」

バスドラ「くつそ～！覚えて…」

すると突然闇のオーラが出現して中からメフィストが現れる！

メフィスト「情けないぞお前たち！下がれ！」

バスドラ「はつ！メフィスト様！」

バスドラ達は退散する。

メロディー「あいつは！」

ビート「マイナーランドの王メフィストよ！」

ハミィ「ニヤブ！」

怖がるハミィ

リズム「メフィストが何故ここに？」

するとメフィストはオーガに話しかける

メフィスト「友よ！大丈夫か？」

オーガ「ああ！平氣だ！」

2人は仲良く握手する！

メロディー「つて事は！」リズム「あの2人友人同士つて事？」

ビート「信じられないわ！」

驚愕する三人

オーガの周りからオーラが消える。

ファイズ「あいつがメフィスト！なるほどさつきのオーラはあいつ

か！しかも友人同士なんてマジかよ！」

ファイズ達は先ほどメフィストが別次元から発動したオーラに吹き飛ばされて壁に激突し地面に倒れて氣絶していたがファイズだけ意識を取り戻して立ち上がる！

【デルタは吹き飛ばされた衝撃で変身が解除されています】

オーガ「まだ立ち上がる気か！ならば！」

オーガが闇のオーラを身体から出して強烈なパンチをファイズに放つ

オーガ「ふん！」

ファイズ「うわああ！」ファイズのファイズドライバーにパンチが当たり変身が解除され狼は吹き飛ばされた衝撃で地面に再び倒れる。ファイズフォンは故障して火花を散らしていた。

狼「くそおーぐは！」

血を吐く狼

メフィスト「フハハハハ！これで仮面ライダーもおしまいだな！」

メロディー「よくも狼くん達を！」

三人は素早くオーガに向かおうとしたが！

メフィスト「邪魔はさせん！」

三人「キャアアアア！」

メロディー達もメフィストが放った闇のオーラで吹き飛ばされて壁に激突する！

メロディー「く！」

リズム「このままじゃ！」

ビート「狼くん達を助けられない！」

メフィスト&オーガ「トドメだブリキュア！仮面ライダー！」

オーラを放とうとする2人

まさにその時だった！

突然空中からバイク音が響きわたる！

【ブゥウウン！】

メフィストとオーガは攻撃を中断して当たりを見渡す！

2人「誰だ！」

すると異次元からのオーラが突然現れ中からバイクに乗った赤い革ジャン男が現れる！

メフィスト「貴様！何者だ！」

オーガ「答える」

すると男は2人を睨みつけて言つ

?「俺に質問をするな！」

メロディー【いやいや…答えるべきでしょそこは…】と思ひ心で突つ込む！

その男はバイクからおりながらアクセルドライバーを装着して赤いガイアメモリを取り出しボタンを押す！

【アクセル！】

メロディー「あれって！」

リズム「ガイアメモリ…よ

ビート「あの人一体？」三人は驚愕しながら何とか立ち上がる。

狼「竜さん？なんで竜さんがこの世界に？ぐつがは…」

再び血を吐く

メロディー「狼くんしつかりして！」

リズム「酷い怪我！」

ビート「とにかく病院に！」

狼「必要ねえ！ぐつジェ…ジェットスライガーの荷物入れから薬箱を取つて来てくれ！ぐつ早く！」

再び血を吐き散らす狼

メロディー「狼くん！」

リズム「薬箱ね！すぐ取つてくるわ！」

リズムは走つてジェットスライガーの荷物入れから薬箱を取り出して戻つて来た。

【メフィスト達は照井に集中していた為気づかなかつた】

リズムは素早く狼の指示に従つて薬箱を開き治療を開始する。メロディーとビートも手伝いながらビートが狼に聞く

ビート「狼くんこんな時に悪いんだけど、あの赤い服着た人知つて

いるの？」

狼「あの人は…照井竜さんだ！兄貴の友人でダブルの世界で…刑事をやつしていく…俺達と同じ…仮面ライダーだ！」

ビート「だからガイアメモリを！」

リズム「血圧が下がったわ！頑張って狼くん！」

すると氣絶していた甲が

甲「くつ一体なにがどうなつて？」

甲がようやく気が付いて狼を見て一瞬で状況を理解しデルタドライバーと故障したファイズドライバーを拾い上げ狼に近寄る！

甲「おい！しつかりしろ狼！ビート変わってくれ！僕が後をやるから！」ビートが額き素早く変わる！

竜「みんな！しばらく休んでいろ！狼くんはそれ以上喋るな！」

そして照井竜は叫ぶ！

竜「変…身！」

【アクセル！】

照井竜はアクセルドライバーにアクセルメモリを装填してグリップを回す！

するとバイクのエンジン音が響き渡り照井竜の周りに赤い輪が出現して一瞬で赤い装甲を身にまとい仮面ライダーアクセルに変身した。メフィスト「お前は！」

オーガ「思い出したぞ！まさかこの世界まで追いかけて来るなんてな！照井竜！いや仮面ライダーアクセル！」

メロディー達も驚愕していた

メロディー「うそお！あれって！」

リズム「海東さんがあの時呼び出したライダーよね？」

ビート「あの人人が本当の変身者だつたんだ！」

甲「手を止めないでくれ～2人共～！」

2人「ごつごめん！」

一方のアクセルは

アクセル「貴様らを逮捕するまでどこまでも追いかけてやる…さ

あ！振り切るぜ！」

アクセルは乗つて来たバイクからエンジンブレードを取り出してエンジンメモリをセットしてグリップを握る

【エンジン・ジェット！】

そのままエンジンブレードでオーガに切りかかる

アクセル「うおおおお…」

オーガ「ふん！」

オーガは余裕でエンジンブレードを受け止めてしまった！

オーガ「どうした？この程度か？」

するとアクセルは

アクセル「まだだ！！」【アクセルアップグレード！】

アクセルはいつの間にかガイアメモリ強化アダプターを装着してもう一度ドライバーのグリップを回す！

【ブースター】

するとアクセルの装甲が黄色くなり黒い装甲とブースターそしてバイザーが装着されてアクセルはアクセルブースターに強化変身した！
オーガ「なに！」

アクセルB「絶対に！振り切るぜ！」【エンジン・マキシマムドライブ】

アクセルBはそのままオーガをつかみ空中に連れさつていき勢いよく地面に向かつて投げつけて落下するオーガにブーストスラッシュャーを炸裂させる！

アクセル「うおおおおおおおおおお…」

オーガ「グワア！」

オーガは地面に叩きつけられても尚変身は解除されなかつたがかなりダメージを与えたようだつた。

オーガ「ぐは！く！き貴様！」

メフィストが駆け寄り友を立たせる

メフィスト「しつかりしろ！貴様よくも俺の友人を…うおおおおおおおおおおおお！」

ハミィ「ニヤップ！」

メフィストの放叫と共に集めた音符がフュアリートーンから飛び出してメフィストに吸収されメフィストは自らネガトーン化してしまつた！

メロディー「うそお！」

リズム「音符を全部吸収しちゃつたわ！」

ビート「まあいわ！今狼くんは動かせない…ビートバリア！」

ビートは素早くバリアを張る！

メフィスト「こざかしい！」

メフィストがバリアにパンチをしようとする…だが

【ヒレクトリック】

エンジンブレードから電流を発生させてパンチをアクセルBが受け止める

アクセルB「ここは俺に任せろ！絶対に通さん！ハア！」

メフィスト「ぬお…」

メフィストが弾き返されて倒れる！

アクセルBはエンジンブレードを構えてメフィストに振り下ろす！

アクセルB「終わりだー！」

すると風が舞上ると共に黒いマントと仮面を付けた謎のプリキュア、キュアミューズがメフィストの前に立ちふさがる！

アクセルB「なに！」

ギリギリでエンジンブレードをずらりしてキュアミューズとメフィストから外す！

三人「キュアミューズ！どうして！」

アクセルB「何故邪魔をする…そこを避け！」

エンジンブレードをキュアミューズに向けるがミューズは退かずただアクセルを見ていた。その顔は悲しい表情をしながらするとドドリーが現れて話す

ドドリー「邪魔をしてごめんドドー！でも待って欲しいドドー…」

アクセルB「どういう事だ？」

するとミコーズがメフィストに振り返り叫ぶ！

ミコーズ「パパ辞めて！もうこれ以上暴れないで！」

ミコーズが仮面とマントと服を投げ捨て正体を現す！

その姿はメロディー達より背が低いがメロディー達によく似た黄色の衣装を着て髪はオレンジ色でハート型の飾りを頭に着けていた！

メロディー「この子が！」

リズム「この子がミコーズの正体なの！」

ビート「しかもメフィストの娘？どういう事？」

狼【あの子も俺と同じ立場なのか！】

心で驚愕して驚く狼

メフィスト「まさか！アコか！」

三人「え〜！」

メロディー「ミコーズの正体はアコちゃんだったの！」

狼「アコちゃん？だれ？」

狼はメロディー聞く

メロディー「アコちゃんは奏の弟の奏太くんの同級生なの！」

狼「なつ本当かよ！ぐつ」

痛みに苦しむ狼

するとオーガが駆けメフィスト寄り話す

オーガ「時間だ！あの方がお呼びになる！戻るぞ！」

ネガトーン化したメフィスト驚いたまま！頷き

メフィスト「今日の所はここまでだな！」

2人は闇のオーラを発生させて消えようとする！

ミコーズ「パパ待つて！」

だが時すでに遅く2人は消えてしまった。

ミコーズ「パパ…」

天を見上げるミコーズ

そして間もなくしてスマートのチームが駆けつけて全員がスマートの車でスマート内にある病院に運ばれて行つた。

に
続
く
！

VSオーガ&ネガトーンー地の帝王と振り切るハンジンヒルマーの正体ー（後

next Fair ミコーズの真実と狼の父親の真実！発動する新しい仮面ライダー！その名はティガノマ
お楽しみに～

*次回が書き終わったらこよこの劇場版のキバ達とのコラボ映画とのリンクです。
そちらもお楽しみに～

//コーズの真実と浪の父親の真実…そして新しい仮面ライダー…その名はティガ

おまたせしました！パソコンで文章つて結構めんどくさいです。
(いつも携帯だったし)

ではSTARTUP

//コーズの真実と狼の父親の真実！そして新しい仮面ライダー！その名はティガ

3日後、ここは病院内

メンバーは狼の病室にいた。

奏があ見舞いに新作ケーキをどつさり持つて来たのでみんなで食べ

ながら響が話しかける

響「具合どう？」

狼「もう平気で…とりあえず明日には退院出来るって。」

奏「良かった」

エレン「心配して眠れなかつたんだから！」

笑顔の3人だつたが甲は表情が困つた顔をしていた。

狼「？どうしんだ甲？ファイズギアの事か？」

甲「ああ！ファイズギアの修理は順調だよ だが、完全に治るのは明日だ」

響「じゃあ狼くんは変身出来ないの？」

成一「いや狼はまだ変身出来るぞ！」

成一が病室に入つて来て言う！その顔は笑顔だつた。

照井竜と調辺音吉と調辺アコも一緒に

狼「竜さん！」

響「アコちゃん！それに音吉さん？」

成一「先ほどまでメフィストの事を話し合いをしていた所だ…」

狼「それより！俺が戦えるって？」

成一「ああ！ディガノマが昨日遂に完成したんだ。」

響「ディガノマつてこの前見せてくれた仮面ライダーよね？」

成一「ああ！その通りだ。」

奏「何で早く完成したんですか？」

成一「ダブルの世界にいた照井君に頼んで協力者のフイリップ君を作つてもらひそのまま組み込んだら予定より早く完成したんだ。」

エレン「フイリップ君が？」

三人は驚き成二は頷く

そして成二は

成二「狼試しに変身してみる」

持つてきたトランクケースを開きディガノマフォンとドライバーを渡す。

狼「ここで変身して大丈夫なのか?」

成二「大丈夫だ!許可は取つてある。さあ!」

狼は起き上がりドライバーを装着してディガノマフォンのカバーをスライドさせてボタンを666と入力してEnterボタンを押す!

【station·by】

ややエコーがかかった音声が鳴り

【イメージはガタックです】

待機音が鳴る

【キューン! キューン! キューン!】

狼「変身!】

狼はいつものポーズで変身する

【complete】

グリーンのフォトンブラーが発生してラインを作りファイズと同じボディを作り を斜めにずらした顔を持つ新たな仮面ライダーディガノマに変身した!

ディガノマ「すげー! ファイズの時より軽いな!」

成二「それだけじゃないぞ! デルタの音声コマンドシステムを改良した物を搭載したんだ。ツールを使う時武器の名前を言つてアクティブ! って叫べ!

必殺技もボタンを押さずに音声コマンドでチャージって叫べば使えるぞ!」

奏「つまり音声コマンドで全て使えるって訳ね?」

成二「その通り! もちろん今まで通りの使い方も出来る!」

ディガノマ「すげー!」

成二「それだけじゃない。アクセルフォームのデータを入れてある

からこれからは音声「ママンド」で使う事が出来るぞ！」

「ディガンマ」「マジかよ！じゃあ俺はこれからは、ディガンマで戦うんだな」

成二「いや、お前はテスト装着者だ。いずれ正式装着者は決めるが

…」

「ディガンマ」「なーんだつまんねーなー」

ディガンマは変身を解除して狼に戻り椅子に座る。

成二「まあそう言つたな！ファイズにも新装備があるんだからな！だが今は秘密だ！」

響「なんで秘密なの？」

成二「それは秘密だからだ！さてアコちゃん待たせてすまなかつたな」

アコ「いえ大丈夫です！」

アコが昨日の謝罪をする。

アコ「この前はごめんなさい！でもパパを傷つけたくなかつたから…」

うつむき悲しい表情を浮かべる。

響「ううんアコちゃんは悪くないよ！悪いのはメフィストよー。」

だがアコは首を振る。

アコ「まずちちゃんとした説明するね。パパはね元々メイジヤーランドの王様なの！」

成二と竜そして音吉以外が驚く

2人「え～～～～～～！じゃあアコちゃんつて王女様つて事…」

「狼」「マジかよ！うんつて事はアコけやんの母親つてアフロディテ様つて事じょんか！」

エレンはすぐに敬語で話す

「エレン」「姫様！これまでの無礼お許しください！私は！」

アコ「ううんいいのーセイレーンも今は元に戻ったんだしー！」

さらに話を進めるアコ

(* ここから先が長かつたので本編の内容を脳内補充してください。)

アコ「パパはヒーリングチエストを取り戻すために魔響の森へ挑み、そこで闇の力に心を奪われ私たち家族を捨てて不思議な力でマイナーランドを作ったの！でもパパは本当は優しい人だから私パパを助ける為にプリキュアになつたの！」

響「そうだつたんだ！」

奏「だから竜さんから庇つたんだ」

エレン「しかも音吉さんが姫様のおじいさままでアフロティテさまが音吉さんの娘だつたなんて！」

しばらく無言が続き響が話す

響「私ずつとなんでプリキュアがマイナーランドと戦うのかつて考えたの！それつてメフィストを元に戻す為じやないかつて！」

アコ「響……！」

響「それにあなたの家族の愛があればきっとメフィストを操つている敵もきっとたおせるわ！」

プリキュアメンバーは頷く

すると狼が

狼「家族の愛か……それで家族は本当に救えるのか？」

悲しい表情を浮かべながら話す狼

響「え？」

奏「狼くん？」

エレン「どういう事？」

アコ「救えないって事？」

狼は慌てて首を振り言つ

狼「違うよー！アコちゃんの方じやないよ。メフィスト王はまだ救えるかもしない。そうじやなくて俺の親父の事で…」

三人「狼くんのお父さん？」

アコ「あなたのパパも何かあつたの？」

狼「ああ、俺の親父はかつてこの研究員であつてスマートの初代

司令官だつたんだ。」

響「え～～！お父さん今どこに…」

狼「死んだんだ…いや正確には魂が死んだと言つた方がいいか…」

奏「どういう事？お父さんの名前は？一体誰なの？」

エレン「それに魂が死んだつて？」

浪は天上を見上げて話す

狼「親父の名前は犬上巧 僕とは違ひ人間でオルフェノクと人間の社会を作ろうとしてファイズとして戦い、そしてキバの世界から侵攻してきた闇の王と戦いで負けて闇の力を注がれて今はアークオルフェノク…いや变成了たんだ。」

響「そんな！」

奏「じゃあ浪くんは自分のお父さんとずっと」

すると浪は涙を流し

狼「アイツはもう俺の親父じゃない！心まで闇に侵されて体を乗つ取られた別人だ！」

ここで照井竜が

竜「それは違うぞー君の父親を操つている正体はあるT3ガイアメモリのせいだ。」

狼「え？」

狼の涙が止まり成二以外の全員が驚愕する！

響「T3ガイアメモリって！」

奏「士さんと戦つたあの時の？」

エレン「どんなメモリなの！」

竜「コントロールのメモリだ、一番厄介なガイアメモリの一つで最初に起動させた人物が対象の人物を操るメモリだ。」

狼「元に戻す事は出来るんですか？」

竜「元に戻すにはこれを使うしかない」

照井竜はエクストリームのガイアメモリを取りだして見せる

響は困った表情になりながら読む

響「イ～エクストリームのガイアメモリなんて書いてあるの？」

奏「エクストリームって書いてあるわ」

アコ「これで浪さんのパパを救えるんですか？」

竜「ああ！この量産型エクストリームメモリなら出来るはずだ。それにエクストリームメモリには相手のメモリを無効にできる力がある。だが相当苦しい戦いになるだろ？、今日はゆっくり…」

（ブーン～ブーン～ブーン）

突然緊急サイレンが鳴り響きアナウンスが鳴る！

アナウンス「加音町中心街でメフィストが出現！隊員はすぐに出動してください！繰り返します」

成二「よし！みんな行つてくれ！」

三人「はい！」

竜「まかせろ！」

狼「兄貴！俺も！」

成二「バカ言うな！お前はまだ治つたばかりじゃないか…」

だが浪は

狼「頼む！アコちゃんの為にも行きたいんだ！父親を取り戻す為にも！」

浪の目には力強い何かがあつた。

成二「わかつた。だが無理はするな！」

狼「ああ！」

こうして全員現場に向かうのであった。

づく

ミコーズの真実と浪の父親の真実！そして新しい仮面ライダー！その名はティガ

NEXT FAIZ 決戦！メフィスト対ライダー＆プリキュア！そして新たな敵！

決戦！メフィスト&オーガ対ライダーズ&プリキュア！新たな敵の登場と新たな

決戦と書きながらまだ映画版には行かないかもしれません。

理由は先週のハロウインの回をオマージュした作品を作りたいからです。

ではSTARTUP

決戦！メフィスト&オーガ対ライダーズ&プリキュア！新たな敵の登場と新たな

狼たちが現場に到着すると、ライオトルーパーがメフィストに対し
てアクセルレイガンで応戦をしていたが、メフィストが拳で地面を
殴り吹き飛ばす！

メフィスト「小賢しいわ雑魚ども！出て来い！キュアミューーズ！」
ライオ「うわあああああ！」

吹き飛ばされるライオ達！

狼「なんかこの前よりパワーアップしてるな！」

メフィストの見た目は変わらないがパワーが比べ物にならない物になっていた。

響「でも！やるしかない！」ここで決めなきゃ女がすたる…」

アコは思いつきり叫ぶ！

アコ「パパ！もうやめて！」

だがメフィストには届かない！

エレン「姫様！ここはわたし達が止めます！下がつてください！」

アコ「でも！」

奏「アコちゃんは私達がピンチの時に助けてくれたじゃない！だから今度は私達が！」

響「助ける番だよ！」

甲「止めてみせるさ！」

竜「父親は俺達が救つてみせる…」

狼「行くぜ！みんな！」

アコ以外それぞれの変身アイテムを取り出す！

狼は素早くディガングマフォンにコードを入力しデルタフォンを握つた甲と共に叫ぶ

狼&甲「変身！」

【Stationing・by】【Complete×2】

2人はディガングマとデルタに変身する…

三人「レツップレイ！プリキュア・モジュレーション」

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディー！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

三人「届け、3人の組曲！スイートプリキュア！」

ポーズを決める三人！

【アクセル】

竜「変…身！！」

ドライバーにメモリをセットする！

【アクセル】

エンジン音が響き渡りアクセルに変身しエンジンブレードを振り上げ

アクセル「さあ！振り切るぜ！」

全員メフィストと対人する。

まずはプリキュア達が走り攻撃を開始する！

メロディー達「ハア～！」

メフィスト「フン！効かぬわ！」

三人「きゃあああ！」

たつた一発のパンチだったが破壊力が凄まじく勢いで吹き飛ばされる3人

だがなんとか体制を直して着地する

メロディー「く！」

リズム「うう！」

ビート「なんて力なの！」

互いに支え合いなんとか立ち上がる！

ディガングマ「く！」

アクセル「こいつ！」

デルタ「だつたら！」

ディガングマはポインターをセットしデルタとアクセルもそれぞれの武器にエンジンメモリとメモリを差し高くジャンプし2人は叫ぶ！

！

「ディガノマ「チャージ！！」

「デルタ「ヒュック！！」

【Exseed charge ×2】

【エンジン一マキシマムドライブ】

音声が鳴り響きそのまま「ディガノマ」はライトグリーンのフォトンでロックしアクセルと「デルタ」もそのまま突っ込む！

「ディガノマ「くらえ！ガノマスマッシュ！」

「アクセル「うおおおおおおおおおおお！」

「デルタ「はああああ！」

「メフィスト「させるか～！」

パンチで向かえ射ち互いに激突する！だが…

「ディガノマ達「く～なんて…なんて力だ！」つづわあああああああああ！」

全員弾き返されて建物に激突する！

「アクセル「なんてヤツだ！」

「デルタ「僕達の必殺技を返すなんて…！」

「何とか立ち上がるライダー達

？「あたりまえだ！さらなる力を王からもらつたのだからな！」

「オーガだった！オーガ同様のカラーが施されたジェットライガーに乗つてオーガが空中に現れたのだ！」

「ディガノマ「Ｚ！いや親父！」

「オーガ「私はお前の父親ではない！」

「スライガーから降り立ち否定するオーガ

「オーガ「まずはプリキュア共お前達からだ！」

「オーガはオーガストライザーリー引き抜き動けないプリキュア達に向かつて行く！」

「ディガノマ「やめろおおおおお！」

「素早く「ディガノマレイガノ」を取り出して走りギリギリで受け止めてプリキュア達を守る！

「オーガ「む！」

メロディ「狼くん！」

ディガンマ「俺が相手だ！みんなは早くメフィストを浄化するんだ！」

リズム「わかつたわ！」

ディガンマ「たのんだぜ！おりやああああ！」

オーガを押し出して遠ざける！

オーガ「貴様！良からう！相手をしてやる！フン！」

ディガンマ「く！」

互いに剣で斬り合い戦う親子！

メロディ「みんな！」ぐよ！」

リズム「ええ！」

ビート「うん！」

メロディ達はハーモニー・パワーを高め手を合わせて叫ぶ

三人「プリキュア・パッショナートハーモニー！」

金色の閃光波をメフィストに向かつて発射する！だが！

メフィストは受け止めてしまった！

メロディ「そんな！」

メフィスト「ハーモニー・パワーなど俺には効かん！喰らえプリキュア共！」

メロディー達のエネルギーを闇に変えて繩状にしてメロディー達を縛る！

三人「きやああああああ！」

凄まじいエネルギーでダメージを与えるメフィスト！

メロディー「このままじゃみんなやられる！ああ！」

悲鳴をあげる三人

メフィスト「死ね～！プリキュア～！」

デルタ「やめる～！ファイヤ～！」

【Burst Mode】

デルタブラスターで光弾を放ち攻撃するデルタ

メフィスト「小ざかしい！小僧！」

片手で防ぎデルタを殴り飛ばす！

デルタ「うわあああ！」

吹き飛ばされ変身が解除される甲！

アコ「みんな！」

アクセル「そろはせん！」

アクセルは立ち上がり挑戦の記憶が入ったトライアルメモリーを取り出して変形させて素早くセットし走る！

【トライアル！】

スタートランプの音と共にアクセルの色が一瞬ブースター同様になりそして装甲が軽い物に変わり一瞬で青いボディを持つ高速戦士アクセルトライアルに変わったのだ！

メフィスト「なに！」

アクセルTはブレードをもつたままトライアルメモリーを引き抜きボタンを押すと放り投げもう一度ブレードにマキシマムをかける！

【エンジン！マキシマムドライブ！】

そしてそのまま凄まじい速さで繩を連續切りで切り裂きそしてメモリをキャッチしてお

【トライアル！マキシマムドライブ】

アクセルT「9：8秒！それが仲間を救うタイムだ！」

と言った直後プリキュア達が解放される！

メロディー「助かった！ありがとう竜さん！」

アクセル「礼はいい！だがこのままとまざいな！」

リズム「えっ？」

ビート「みんな！危ない！」

メフィストはさらに怒り狂い四人に攻撃をする！

メフィスト「おのれえええ！」

アクセルT「避ける！」

メロディー「うわあああ！」

リズム「なんて力なの！きや！」

ビート「どうすれば！」

なんとか避ける四人！

さらに暴れまわるメフィスト！

メフィスト「貴様ううう！」

辺りをめちゃくちゃに破壊するメフィスト！するとアコが飛び出し叫ぶ！

アコ「パパもうやめて！優しいパパに戻つて！」

メフィストが止まりこちらを見る

メフィスト「うー！」

突然頭を抑え苦しみだす

ドドリー「今だ！変身を」

うなずくアコ

アコはキュアモジューレを取り出して叫ぶ！

アコ「レツツープレイ！プリキュア・モジューレーション！」

ミユーズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミユーズ！」

降り立ちまっすぐ父親を見つめる！

メフィスト「うつうつアコー！うわあああああ！」

突然体から闇のオーラが発生したのだ！

ミユーズ「パパ！」

アクセル「まずい！」のままだと君の父親はさらに深い闇に飲まれる！助けるならいまだ！」

うなずくミユーズ！アクセルは強化アダプターをアクセルメモリにセットする！

【アクセル！アップグレード！】

そのままドライバーに差し込み【ブースター！】と音声が鳴りアクセルブースターに強化変身する！そしてエクストリームメモリをミユーズに握らせる！

ミユーズ「これは？」

アクセル「君の父親に対する想いをそのメモリに注いでくれ！そすれば父親を救う事が出来る！」

ミユーズ「わかつたわ！」

ミユーズは父親に対する想いをメモリに注ぎーそしてメモリをアクセルBに渡す

アクセルB「行くぞ！」

ミユーズ「ええ！」

そのままブレードに差し込む！

【エクストリーム】

アクセルB「掴まれ！」

ミユーズの手を掴み飛んでメフィストに向かう

ミユーズ「パパ～！」

メフィスト「！！！！！」

アクセルB「行くぞ！」

ミユーズ「うん！」

【エクストリーム！マキシマムドライブ！】

ミユーズの想いを込めたメモリの力が宿ったブレードと一緒に振り上げてイヤホンを一刀両断する！

メフィスト「！！！うお～～！」

するとメフィストが元の大きさとそのまま元の姿に戻りひざまずく！そして

メフィスト「アッアコ！」

ミユーズ「パパ～！」

互いに抱き合つ親子！

アクセルB「親子の絆それが闇を碎く力だ…」

メロディー「良かつた元に戻つて」

リズム「ええ～」

ビート「残るはオーガね！行きましょう！」

一方のディガノマはアクセルフォームで戦っていた…だが…

【3・2・1・Time Out】

ディガノマ「しまった！うわあ～！」

とうとうオーガに蹴り飛ばされてしまった！

オーガ「ふん！」

ディガノンマ「ぐわあ！くそつー！」

同時に変身も解除されドライバーが何所かに飛ばされて狼の姿に戻る！

メロディー「狼くん！」

リズム「いま助けるわ！」

浪「来るな！このケリは俺がつける！」

ビート「でも！」

オーガ「ゴチュゴチャうるさい…だまれ！」

衝撃波でプリキュア達をなぎ払う！

4人「きゃあああ！」

狼「よくもみんなを…うおおおおおおおお…」

狼はの力を振り絞つてウルフオルフェノクに変身する！

オーガ「おもしろい！来い！」

ウルフ「うおおお！」

ウルフは凄まじい速さでオーガに格闘技で挑む！もちろんオーガも反撃しそして…

ウルフ「ぐわああああああああ！」

勝敗はオーガだつた！

ウルフは深手を受けたが尚何とか立ち上がる！

ウルフ「負けるかよ！親父の田を…いや父さん田を覚めさせるまで！」

オーガ「くつなんだこの感情は…うつ…」

突然頭をかかえ苦しむ！

ウルフ「！父さん思い出してくれよ！俺だ！狼だよ！」

オーガ「だまれ！貴様は俺の息子じゃない！死ね～！」

オーガストライザेを振り上げる！だがその時！光弾がオーガの手に当たり武器を落とす！

オーガ「グワア！」

？「相変わらずだな！だがお前らしいぜ！」

オーガ「誰だ！」

一人の高校生らしき少年が姿を現した！吹き飛ばされたディガンマドライバーを腰に装着して左手には何かが入ったトランクを持ち右手にはブロスター・フォンを握っていた！その右手首には変わった形のプレス【アグレイター】が付いていた！

ウルフは狼の姿に戻り驚く！

狼「海！カイじやないか！」

藤宮海だつた！この少年は浪の幼なじみだつたのだ！

メロディ「この人誰なの？」

浪「俺の幼なじみで藤宮海さ！それよりお前どうして…」

海「話は後だ！コレを受け取れ！」

受け取つたトランクを開けて見ると中には修理が完了したファイズドライバーセットが入つていた！

狼「ファイズ？でもなぜ？」

海「予定よりも早く直つたんだ！変身するぞ…」

狼「ああ…」

浪は素早く装着して2人は変身コードを入力する…

【Stationing・by】【Complete × 2】

同時にライダーに変身する！

ファイズ「よっしゃ！ファイズ参上…うん？」

するとオートバジンが勝手にやつて来てなにやら形の変わつたトランクを浪に投げ渡してきた

ファイズ「コレは？」

ディガンマ「そいつはファイズブロスターだ！変身コードをもう一回入力してフォンをセットしろ…」

ファイズ「わかつた！」

オーガ「させるか！」

オーガが剣で詰め寄つて来た！だがディガンマが素早くディガンマレイガンで応戦する！

ディガンマ「今の内だ！ローチャージ…」

【E x s e e d c h a r g e】

ディガノマは威力を抑えたイレイザースラッシュでオーガを切り裂き動きを封じる！

オーガ「うお！」

ファイズはもう一度コードを入力する！そしてフォンをファイズブラスターにセットした！すると

【A w a k e n i n g】

一瞬でボディが赤くなりアーマーも変化してファイズは最強形態ブラスター・フォームに強化変身する！

ファイズBF「これは？」

ディガノマ「それがブラスター・フォームだ！今度は103と入力しろ！」

素早くコードを入れる！

【B l a s t e r M o d e】

ファイズBF「すげー！よし！」

砲台をオーガに向ける！

オーガ「なんだそのファイズは！」

フラフラと立ち上がり驚くオーガ！するとアクセルがエクストリームのメモリを投げる！

アクセル「受け取れ！これでメモリを浄化しろ！」

ファイズBFはメモリを受け取る！するとファイズブラスターの横が開きメモリ挿入口が出現する

ファイズBFはそのままさらにメモリを差し込む！

【E x c u s t o r y - M a k i s h i M a d r a i b -】

オーガ「何をする気だ！ぐつ頭が！」

武器を落とし頭を抱える！

ファイズBF「父さん！田覓めてくれ！」

ボタンを押し

【E x s e e d c h a r g e】

と同時にエネルギーを貯めて引き金を引く！

ファイズBF「いけ」フォトンバスター・ショット！」

【ズドン～！】

一発の光弾がオーガに命中し変身が解除されると同時に犬上巧の姿に戻りさらにコントロールのメモリが排出され破壊されたのだ！

ファイズBF「うさん！」

巧「狼か…すまなかつたな…」

ファイズBF「いいんだよううさん！良かつた！本当に良かつた！」

父親を抱く狼

メロディ「コレで一件落着ね」

リズム「うん」

ビート「良かつた！でもビーフしてメモリだけ破壊できたの？」

変身を解除した海が説明する。

海「エクストリームの力でメモリだけを破壊する様に予めプログラムが組み込まれていたのさ！だからベルトを破壊せずに巧さんを助けられたんだ。」

ビート「なるほどね～！」

すると突然父親を連れたミユーズが上を指差し！

ミユーズ「！！！みんなあれを！」

ミユーズが指差した方角を見るとサイガが飛んできたのだ！

サイガ「あ～あ！洗脳とかれちゃったか！」

プリキュア達には聞き覚えがある声だった。

着地するとドライバーからフォンを外す！その正体はなんとファルセットだったのだ！

ビート「あなたがサイガの正体だったの！」

全員構える！

ファルセット「そ、そこには…」の俺がそこにいるオーガとメフィストをあやつりノイズ様とアーク様の下部にしてやったのさ！はっははははははは！」

馬鹿にしたように笑うファルセット

ファイズBF「貴様！絶対に！絶対に！許さない！」

メロディー「よくも2人の親を！絶対に許さない！」

ミコーズ「あなただけは！絶対に！」

怒るプリキュアとライダー達！

ファルセット「やつてみろよ！変身！」

再びサイガに変身して指を鳴らす

【パチン】

煙と共に消え去る！

ファイズBF「！！！てめえ逃げるのか！」

サイガの声「戦いはまた今度なゆっくりやらせてもらひう…じゃあな
！ははははははは！」

サイガは消えてしまった！

メロディー「また逃げられた！」

リズム「でもノイズとアークって一体？」

謎を残し消え去ってしまったサイガ！一体何が始まったのか？

ミコーズ【ノイズとアーク！まさか復活が近いの？】

続く！

決戦！メフィスト&オーガ対ライダーズ&プリキュア！新たな敵の登場と新たな

NEXT FAIZ ノイズ／アークの真実とわくわくハロウイン
！アグルと豪快な海賊参上？

仮面ライダーの設定2（前書き）

とつあえずオリジナルライダーの設定です！
ではSTARTUP

仮面ライダーの設定2

仮面ライダーディガノマ
本作オリジナルライダー

ファイズの後継機として新たに開発された仮面ライダー
変身コードは666

フォトンブレイブの色はライトグリーン。

速さ以外のステータスがファイズの一倍になっている。

従来の使い方の他ダブルの世界にいたフィリップの協力で作られた
プログラムのおかげでデルタ同様音声コマンドでの使用が可能にな
り必殺技の出力調整も可能。

また全ての武器がミニシヨンメモリー無しで必殺技が使用可能にな
つており、また内蔵型アクセルフォームも搭載されている。使用可
能な装着者はスマートに所属するオルフェノクとプリキュア全員が
使用可能となつている
主な装着者は藤宮 海ふじみや かい

変身ツール

ベルトはファイズと同じで違いはブレード用のホルダーが付いてい
る。

ディガンマフォン

初のスライド式携帯電話型ツール

ミッショントモリーがついて無いのが特長で画面にマークが表示さ
れています。

フォンブラスターはカイザフォン同様にスライドさせて使う事が出
来る。

ディガノマショット

基本性能はファイズ達と同様だがメモリー無しでも使用可能

ディガンマポインター

ファイズと同型 メモリー無しで使用可能

必殺技はガンマスマッシュ

基本はファイズと同じ

ディガンマレイガン

ディガンマ専用コンバットナイフ型の武器

形状はアクセルレイガンだが切れ味や破壊力が3倍になっている。

必殺技はイレイザースラッシュ

フォトンをまとった巨大化したブレードで接近して相手を切り裂き
相手を倒す。

仮面ライダーーオーガ

スペックなどは原作同様。ニコト犬上巧によつて奪取された。

必殺技も原作同様である。

現在は奪還に成功して修理中である

仮面ライダーの設定2（後書き）

次回は登場人物2です。
ではまた

ノイズ／アークの真実とわくわくハロウイン！アグルと豪快な海賊参上？【前編】

今回は前編と後編に分けて書かせてもらいます。
ではStartup!

ノイズ／アークの眞実とわくわくハロウイン！アグルと豪快な海賊参上？【前編】

「」はマイナー・ランデ…ちょ「ビファルセットが王座に座り二人から講義を受けていた！

バスドラ「どういうつもりだ」

バリトン「そこは君の席では無いはず……」

ファルセット「うるせえ！ 今日からお前らは俺の部下だ！」

突然ファルセットはタイガー・オルフェノクに変身して2人をボコボコにして膝まずける！

バスドラ「ぐわあああ！」

バリトン「お前！ ぐう！」

タイガー「ついでだ！ お一人の偉大なる王からのプレゼントだ！」

雷が2人を襲う！

2人「うわああああああ！」

タイガー「ははははははは！」

果たして何が起こったのか？

つぎの日照井竜は自分の役目は終わり自分の世界にまだやる事があると告げ戻り海以外のメンバーは調べの館に集まっていた。そこで音吉からノイズとアークの話を聞いていた

響「音吉さん！ ノイズって何者なの？」

音吉「メフィストを操っていたノイズと言うのは全宇宙の悲しみが集まつて生み出された究極の悪が集まつて出来た怪物だ、ヤツは不幸な感情を好み一番嫌うのは美しい音楽などの幸福の感情で、その為ノイズはあらゆる世界の音楽を支配しようとしている。ヤツはメイジヤーランドも自らの支配下にしようと当時同盟を結んだレジュンドルガの王アークと共に襲ってきたのだ！」

話を聞いていたエレンがショックを受ける！

エレン「そんなヤツに私が仕えていたなんて……」

落ち込むエレン

すると前にハミィから事情を聞いていた狼が狼「気にするな！エレンは悪くないぜ！操っていたノイズが悪いんだ！」

響「そうだよエレン！」

甲「君は既に正義の味方になつたんだ！な？」

奏「今は私達もいるし ねつ？」

励ますメンバー

エレン「ありがとうみんな」

笑顔が戻るエレン

響「ところでさレジヨンドルガつて？なに？」

奏「それにアークつて？」

狼「知らないヤツだな！初めて聞く名前だ！」

甲「何者なんですか音吉さん？」

音吉「わたしが渡くんから聞いた話だとキバの世界に存在するファンガイアの天敵らしい！彼らはファンガイアと戦争を起こしその最拠点となる場所を探していたらとノイズと出会い同盟してメイジヤーランドを襲ってきたのだ。だが何故同盟したかは渡くんも知らない

い

エレン「今はどうなつてているんですか？」

音吉「一度復活したが今はアークも封印されているらしい・・・」

エレン「そうだったんですね？」

しばらく沈黙し奏が

響「でもどうして同盟なんか？」

音吉「おそらく両者共に悪の力を持ち互いに利用できると考えただろう。だが私もアークについては詳しくは知らないんだ！すまないな・・・」

しばらく沈黙が続きそしてアコが

アコ「パパや巧さんを操っていたノイズとアークを倒す方法は無いのおじいちゃん？」

音吉「ノイズとアークを倒す方法はある……このパイプオルガンを完成させる事とある剣だ！」

響「このオルガン？」

狼「それに剣？」

音吉がうなずく！

音吉「ヤツらの弱点はこのオルガンで奏でる幸せのメロディと正しき闇の力を宿した剣だ！それが弱点だ」

奏「このオルガンが……」

狼「それに闇の剣か……どこにあるんですかそれは！」

音吉「その前に君達にあの戦争の話をしておこう！私はその昔ノイズとの戦い中でファンガイアの王、キバと出会つた……」

音吉「ぐつ！このままでは……！」

とその時凄まじい閃光がレジエンドルガの大半を全滅させ来た方角のオーラに残りを吹き飛ばす！

？「何をしている人間！しつかりしろ！お前たちの世界だろ！」

違うオーラから鎧をまとつた戦士が降り立つ！

音吉「あなたは？」

？「わたしはキバの世界の王だ！共に戦おう人間！」

それはダークキバだつた！しかもザンバットソードを持つた王だつたのだ！

響「え~~~~~！太牙さんが！」

狼「バカ！声でかい！」

響「ごめん続きどうぞ~」

音吉「オホン、では言うぞ。残念ながら太牙くんではない！初代のファンガイアの王だ。その王は音楽を愛していった王だつた為我々を助けてくださつたのだ。その息子は凶暴だつたらしいが……とにかく王と私は戦い何とかノイズとアークをそれぞれの世界に押し込めて

封印したのだ。」

ノイズ「ぎやあああーおのれー！」

アーク「キバ～！！」

互いに封印されるノイズとアーク！

そして場面は変わり音吉はキバと向き合い話す

音吉「なんとか封印はできたな！ありがとうファンガイアの王よ！」
ダーク「これくらい何とも無い！我々は自分達の世界を守る為戦つただけだ。だが気をつける人間！いざれお互いの封印は解けかもしない！」

音吉「そんな！ではどうすれば！」

キバ「奴らを葬るには悪の力を完全に消し去る必要がある…だから聖なる幸せの楽器とこの剣に聖なる正しき闇の力を宿す必要がある。

「そう言つてザンバットソードを見せる

響「え～～～～！あの剣が！」

奏「ザンバットソードって渡さんが持つている剣よね！」

音吉「そうだ！このオルガンと剣が揃えば倒す事が可能になる、今彼はアークの封印の状況を調べてもらつているが・・・」

アコ「でも今もまだ聖なる闇の力見つかっていないんだよね？」

音吉「ああ！だが渡くんなら必ず宿してくれるだろう。」

この後池に町つたメフィストが話かける

メフィスト「わたしはとてもない罪を犯してしまった！だから私はこのような悲劇を一度と起さない為にもこのメイジヤーランドをノイズとアークの脅威から我が身を挺して国を守つてみせます！」

力強く言つメフィスト

アコ「パパ～！」

アフロディテ「この人操られる前より国王らしくなつたみたいな

微笑みながら言つ

メフィスト「とにかく愛しいアコよ～いつ帰つて来るんだ～？今

日か？明日か？それとも明後日か？パパ待ち切れないよ～！」

突然聞くメフィスト！

狼【うぜえ～！なんか腹立つ～この人～】

甲【我慢しろ！こらえるんだ！】

2人は何とか親馬鹿に対する怒りを押える 拳をぶるぶるしながら
アコはしばらく黙りそして言う

アコ「わたしはまだ帰らないわパパ！」

メフィスト「へ～え～！何故だ～愛しい娘よ～！」

泣くメフィスト

狼【あ～泣くな～！マジウザ～！】

甲【我慢だ！】

またしても我慢する2人

アコは赤面になつて言う

アコ「パパ恥ずかしいから辞めて！私決めたの！ノイズやオーガが
らこれ以上悲しみの感情を植え付けられない為にも私ブリキュアと
してここの人々を守りたいの！」

強い決意で言うアコ

響「アコ…」

浪「そうか…」怒り収まつた

メフィストはしばらく黙りそして

メフィスト「そうか！よしアコが決意したならそうしなさい～！でも

～～～

アコ「なにパパ？」

メフィスト「寂しくなつたらいつでもパパの胸に飛び込んでおいで
！いつでもパパはウエルカムしてるぞ～！」
さらに真っ赤になるアコ！

アコ「～～～ちょっとパパ！」

狼【なんなんだ～だこの親父は～！】

甲【落ち着け～！】

この後メンバーは奏の店でお茶をする事になり町を歩いていた。

響が狼に父親の犬上巧の容体を聞く。

響「パパの具合はどうなの？」

狼「良好さー明日には退院できるよー。」

アコ「良かったね浪！」

狼「ああーありがとうなア「ちやん！」

アコ「悪いけどアコちゃんは辞めてー！」アコって呼んでー！」

狼「おうーわかったぜアコーーといりでさーなんでこの人達は町の飾りつけしてるんだ？」

よく見ると町は明日のハロウインの飾り付けでハロウインムードで一色だつた。

アコ「何しているのあれ？」

響「ああアレはーあーおばちゃん手伝ひよー」

おばちゃん「あら響ちやん！ありがとうー。」

手伝う響！

奏「アレはハロウインって言つて海外で昔からある秋のお祭りの一つなの！みんなで仮装してお菓子をもらひのよー。」

エレン「へー！なんかおもしろそつー。」

狼「初めて聞く祭りだな！なあ甲ー。」

甲「ああ！そうだなー。」

アコ「ふーんー。」

奏「エレンやアコは仕方ないにしてもあなた達も知らないの？」

狼「ああ、俺達が前に住んでいた世界では無かつたんだ！だけど面白そうだな！よし行こうぜ！【人々にあの仮装するか】」

思わずニンヤリする狼！

甲【ゲツーまさかこいつあの仮装するつもりかー！】

三人「？」

そして奏が

奏「でもその前に私達もお手伝いしましょーーお祭りは明日からだし」

狼「オッケーー！じゃあオートバジンにも手伝つて貰おつー。」

狼はフオンでオートバジンを呼び出しみんなで手伝い始める。

【オートバジンは普段からこの町をパトロールする警備口ボについているため皆知っています】

その頃空では「ゴーカイギヤレオン」がちょうど到着していた。

マーベラス「ここが占いの場所！ 加音町か！」

アイム「きれいな場所ですね～！」

ジヨー「しかしあの占いはな～！」

ルカ「なんと言つか

ハカセ「ああと言つか

鎧「変わつてましたね～ここでどんなスーパー戦隊じやない戦士の人と会えるのかな～！」

それは昨日の事だった。

いつものようにメンバーは大いなる力の在りかのヒントの占いをナビイの占つこむらつたのだ！

マーベラス「お～鳥！ 今日の占いをしろ～！」

ナビイ「だから～まついいやレッシンお宝ナビゲートタイム～！」

いつものように「チン」とあたりしゃべる

ナビイ「音楽の奏でる町で中学生の女の子戦士と中学生の仮面戦士を助けると良い事あるよ～！ ってこんなに出ました～！」

ルカ「ハつ何ソレ？ 音楽の奏でる町？」

ハカセ「それに中学生の女の子戦士に仮面戦士～どつ言つ事だらう？ ねえ鎧！ わかる？」

鎧「ああ？ 中学生のスーパー戦隊は聞いた事はないですねドンさん…あつ～でも音楽を奏でている町なら俺知つてますよ～！」

ジヨー「本当か～！」

マーベラス「よし～とつあえず行つてそいつらを探して見るか！ 鎧

！ 場所は～！」

鎧「加音町ですよマ・ベラスさん！ 明後日にはハロウイン祭も開かれるみたいですし

マ・ベラス「ハロウイン？なんだそれ？」

鎧「仮装してお菓子をもらうイベントですよー実は昨日貰出しどこんなチラシもらつたんです。」

6枚のチラシを取り出してメンバーに配り見せる

【加音町ハロウイン祭10月31日開催！参加は無料です♪仮装好きな方お待ちしています♪】と地図と共に書いてあった【裏面にはウルトラマンゼロが来る！って宣伝も書かれています】

ルカ「へ～お祭りか！楽しそうじゃん！」

アイム「せっかくですからこちらも行ってみませんか？」

マーベラス「馬鹿！祭りなんて海賊が行けるか！大体俺達はな！」

ジョー「いいじゃないかマーベラス！ザンギヤック達は最近動いて無いようだから休暇がてに大いなる力探ししても」

ハカセ「そうだよ！しかもかぼちゃパイ食べ放題だし！」

鎧「そんな事書いてませんけど…」

ジョー「よく見ろ！食事無料券が一枚付いているぞ！」

【おいしいかぼちゃパイ食べ放題！お一人用！】

確かにこう書いてあつて付いていた！

マ・ベラス「ほう～そのかぼちゃパイって旨いのか！」

鎧「はい！絶対旨いですよ！」

マーベラス「なら決まりだ！行くぞ！」

ハカセ【パイで釣られちゃつた】

こうしてゴーカイジャーのメンバーはハロウインが開催される加音町にやつてきたのだ。

【船は目立つと面倒なので風雷丸に隠してもらいました】

【ちなみにザンギヤックがなぜ休んでいるかと言つと司令官ワルズ・ギルがまた風を引いたのでお休み中です】

町に下りて辺りを見渡す

マ・ベラス「うん？まだ準備しているな…」

ハカセ「今日は30日だよ！明日あるみたい！どうする？」

マ・ベラス「なら取りあえずその戦士を探すか！」

ルカ「だね！えーと中学生つと…おつ…あそ」見てよ…」
ちょうど狼たちが作業を終えて奏の家に向かっている浪達が見えた
のだ！

ジョー「あのメガネの子以外は中学生っぽいな…」

ルカ「ちょっと聞いてみよつか？ねえ君達ちょっとといい？」

狼「え？」

指を自分に探し反応する

ルカ「うん！そこの君達よ…ここにさ、女の子戦士と仮面戦士知ら
ない？」

狼は首を振り答える

狼「ごめんなさい！知りません！お姉さん悪いけど何の話ですか？
つて言うか誰ですかあなた達？【やば～俺達の事じゃん】」

【響達はいきなり話しかけられた為びっくりして固まつてます】

ルカ「悪かつたね！ちょっとした人探しだよ」

マーベラスは黙つてこちらを見ていた。

ジョー「邪魔したな！」

アイム「お邪魔して申し訳ありません。」

ハカセ「じゃあ僕達行くね！さあマーベラス行こう…ね？」

マーベラス「ああ！【あのガキなんか隠しているな…】」

鎧「まつまつてください皆さん～！」

こうしてゴーカイジャーのメンバーは行つてしまつた。

狼「びびつた」なんで俺達の事を？でもある人たち何所かでみたよ
うな～？」

奏「わたしもあるわ！テレビのニュースで見たような？」

甲「変わつた服装だつたような～？」

エレン「それにもあの赤い服の人の服装なんだか海賊の船長ぽ
かつたような…」

アコ「何者だつたのかしら」

響「さあ?とにかく仮装の準備しよう～！」

こうしてみんな奏の家に向かつて行きおいしいケーキと紅茶を駆

走になつたのだつた。

後編に続く！

ノイズ／アークの真実とわくわくハロウイン！アグルと豪快な海賊参上？【前編】

Next Fairノイズ／アークの真実とわくわくハロウイン！アグルと豪快な海賊参上？【後編】

次回狼のライバルで幼なじみの海がいよいよアグルに変身します！
後狼はウルトラマンのコスプレします！ではお楽しみに～！

ノイズ／アークの真実とわくわくハロウイン！アグルと豪快な海賊参上？【後編】

いよいよアグル【V-1】とスペシャルゲストのゴーカイジャー登場
です！
ではSTARTUP！

ノイズ／アークの眞実とわくわくハロウイン！アグルと豪快な海賊参上？【後編】

次の日奏の家で狼以外のメンバーが集まり仮装していた

響＆エレン「おお～！」

甲「いいんじやない？」

アコはお姫様に！奏はカボチャの妖精に仮装していた！

アコ「奏！何これ！」

赤くなり照れるアコ！

奏「アコ～かわいいわ～」自分の仕事ぶりに惚れ惚れしていた

アコ「ちょっと～！私まだ参加するつて…」

響「じゃあ私達も！」響がさえぎる！

響は海賊に！エレンは猫！ハミィはケーキ！甲は王子様だった！

甲「えつ？なんで僕が王子なんだ？」

奏「当たり前でしょ！お姫様いるんだから王子様いなかつたらおかしいし！【本当は狼くん用だつたんだけどまだいなし丁度良かつたわ～】」

二口二口笑いながら話す奏

甲「まあいか」

アコ「だから私行くつて…」

エレン「いいじやないですか姫様～！」

アコ「エレン！姫様は辞めて！」

エレン「えつ？」

ハミィ「アコつて呼ぶ二ヤ～！」

エレン「じゃあ・・・アコ行きましょ～！」

アコ「嫌！」

甲「おいおいまだ狼来てないぞ！出発はもうちよつと？あつ来た！狼はなんと本物のウルトラマンゼロのコスプレをしてやつて来たのだ！」

狼「ようみんな！」

響「なにそれ～！」

狼「ウルトラマンゼロ！セブンの息子だ！ジコワ！」

ポーズを決める！

奏「なるほど～ってウルトラマン？なんで～！」

狼「好きなんだウルトラマン！」

アコ「なんか私より凄いかも…」

こうしてお祭り会場に移動しバンパイアの仮装をした奏太と出会い

場面が変わり会場

奏太「おお～！」

可愛さにびっくりする奏太

アコ「なっ！何よ！」

奏太「いや～まさかアコがそんな格好で来るなんてさ～！」

アコ「無理やり着せられちゃったのよ…」

少し怒るアコ

響「どう？見違えた？って言つたホレタ？」

奏太「うんつてなんて事聞くんだよ響…」

奏「照れてるじゃない～！」

奏太「違います～！！」

照れる奏太

響「ほらほらアコも見てみなよ？」

アコ「わっわたし！あっち見てくる…」
とことこと言つてしまつ

響は微笑みながら

響「なんかアコってかわいいよね～」

奏「かわいい妹が出来たみたいよね～」

エレン「妹か～」

甲「そうだね～」

狼「ああ～うん？」

するところが子が狼に気づいて叫ぶ

子ども「ああ！ウルトラマンゼロだ～！」

子ども達がわらわら集まつてくる！

狼「【おっ！早速来たな】みんな待たせたな！ジユワ～」

決めポーズを取つて子供達が喜ぶ

子ども達「うわ～い」

響「え～！どうなつているの～？」

一方のアコは一人樹の下に移動していた

アコはスカートを引っ張りながら

アコ「意味分からぬ…なんで仮装なんか…」

?「なに悩んでるんだ？」

海が何所からも現れる！

アコ「あ～海！」

海「おいおい俺はコレでも高校生なんだぜ？せめてさん付けしてくれよアコ？」

アコ「～めんなさい…海さんこそなんでもいいこ～るの？」

海「別に！ただブラブラしていただけさ…」

そこに昨日のおばちゃんが通りかかり声かける

おばちゃん「あら～かわいいお姫様にかつこ～にお兄さんね～お～つどうぞ？」

キヤンディを2人に差し出す

アコ「あつわたし別に！」

おばちゃん「えんりょしないでおばちゃん特性の笑顔になれるキヤンディだよ？」

アコ「笑顔になれるキヤンディ？」

おばちゃん「みんなで準備してみんなで笑顔の今日のお祭り、だからアコちゃんも笑つて…」

そう言ってキヤンディを2人に渡して別の場所に向かっていく。

2人はキヤンディを食べ海が話す

海「あんまり先の事ばかり考えるなよ。今はこの祭りを楽しんでい
けばいい、音符もそのうち集まるぞ…」

アコ「うん！ そうだね！」

笑うアコ

一方の響たちはこの出来事を建物の影から覗いていた！

響「アコやつと笑ったね！」

エレン「ええ！」

奏「良かった！」

一方の狼達は？

狼「ふう～疲れた～！」

ベンチに腰掛ける2人

甲「お疲れさん！ ってまさかこの祭りでお前がヒーロー役だつたな
んてびっくりしたよ！」

狼「まあな？ さて飯でも食う…？ なんだあれは？」！

突然ファルセットが率いるトリオザマイナーが闇から町の中央に現
れたのだ！

プリキュアメンバーもこの騒動に駆けつける

響「トリオザマイナー！ あれ？」

狼「またおまえらか！ ファルセット今日！」そ…？ そいつら誰？？

奏「またあなた達？ あれ？」

エレン「あの怪物みたいななの何？」

甲「なんか見たことある気がするな～？」

アコ「変な仮装ね？」

バッドラ&バリトン「変な仮装じやねえ～俺達だ～！」

全員「え～！ なにがあつたんだ～！！」

ファルセット「俺がこいつらに偉大なるお一人の王から力をプレゼ
ントして強化してやつたのさ～！」

自慢げに言うファルセットそして音符を一つ取り出して側に落ちて
いた刀の玩具とかぼちゃランタンに投げつけて叫ぶ！

ファルセット「いですよ！ネガトーン共～！」

サムライ&カボチャネガトーン「ネガトーン！」

二体のネガトーンが現れ先ほどまで幸せそうな町中の人々が泣き始める！

狼「てめえ よくも！」

響たち「みんなの笑顔を奪うなんて！絶対に許さない！」

響たちはキュアモジュークを！狼たちはオートバジンが投げてくれたドライバーなどアイテムをキャッチして装着して言う

狼「みんな！いくぜ！」

狼&甲「変身！」

【Stationing・by】【Complete】【Awakened】
【g】

ファイズBFとデルタに変身する！

四人「レツップレイ！プリキュア・モジュレーション
メロディー」「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

ミユーズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミユーズ！」

四人「届け、4人の組曲！スイートプリキュア！」

ポーズを決める4人！

そしてミユーズがいきなり飛び出し攻撃を開始する！

ミユーズ「はあ～！～きやあ～！」

当然叩き返される！

三人「ミユーズ！」

三人がキャッチしてなんとか地面に着地する

ファイズBF「何やつてるんだ！」

コードを入力してファイズブラスターをブラスターモードにし

【Blaster Mode】

さらに5214とコード入れる

【F a i n B l a s t e r D i s c h a r g e】

フォトンフィールドジェネレーターが展開し両肩に背負う形のプラッティ・キャノンが装着され構えネガトーンに打ちまくる！
ファイズBF「くらえー！」

【ビューン！ビューン！ビューン！ズドーンーズドーン】

ネガトーン達「！！！ネガトーン！」

ひるむネガトーン達！

ファルセット「邪魔はさせん变身！」

【S t a t i o n g · b y】 【C o m p l e t e】

サイガに变身してフライングアタッカーをファイズ達に向かって放つ！

【ズガガガガガガガガガガ！】

周りの立て物や屋台に向かつて無茶苦茶に打ちまくりファイズBFとプリキュアはかわしファイズが叫ぶ！

ファイズBF「サイガは俺達が引き付ける！皆はネガトーンを！」

プリキュア達はうなずきネガトーンに一ライダー達はサイガに立ち向かう！

するとサイドバッシャーに乗った成二がドライバー装着姿で現れた！

ファイズBF「兄貴！」

成二「援軍に来たぞ！」

素早くカイザフォンにコードを入れ叫ぶ！

成二「この前の仮！きつちり返してもらひづぜー変身ー！」

【S t a t i o n g · b y】 【C o m p l e t e】

カイザ「行くぞ！」

サイガ「面白い！かかつて来いライダー共！」

三人は立ち向かっていく！

プリキュア達もネガトーンに果敢に攻撃を開始し始める！

まずはメロディー

メロディー「はあ～！」

サムライネガトーンは刀でパンチを受け止めそのまま押し返す！

メロディー「くつ！」

リズム「大丈夫？」

ビート「危ない！ビートバリア！」

バリアを張り皆を守る！

メロディー「ビートありがとう！でもあの刀厄介ね！どうすれば…」

ミユーズ「隙を見せてくれれば…」

その間にもバリアを攻撃する二体！

とその時！

【ズドドドン！】

突然銃弾がネガトーン達を襲い跪かせる！

メロディー「えつ？」

リズム「何が？」

ビート「あれは…」

ミユーズ「昨日の人たちだわ！」

マーベラス達だった！

マーベラス「つたくせつかくパイ食いに来たのにうるせえ音のせい

でパイが全部台無しじゃね～か！」

ルカ「それにお祭りまで台無しだつたけんだけ！最悪！」

ハカセ「まあまあ！それよりよつやく見つかったよ～女の子戦士に

仮面戦士！え～と…」

ジョー「確かフリキュアと仮面ライターだったか？」

思いつきり間違えられてずつこけるファイズBFとメロディー！

ファイズBF「仮面ライダーだ！」

メロディー「プリキュアよ！」

ジョー「どつちでもいい！似たようなもんだろ？」

ファイズBF＆メロディー「全然違う！」

鎧「いやいや！ジョーさん失礼ですよ？ちゃんと覚えましょー！」

アイム「とにかくあの方々たちを助ければいいですね？」

ライダーとプリキュアは？になつたあとメロディーが

メロディー「ここは危ないから下がつてください！危険ですから！」

つてあなた達なんで不幸のメロディー聞いても平気なんですか？」

マーベラス「さあな？しかしあ前海賊に指図するのか？言つとくが

俺達は誰の指図も受けないぜ！おまえら行くぞ！」

それぞれのレンジャーキーとモバイレード「ゴーカイセルラー」メンバーが取り出し鎧以外レンジャーキーをキーモードにして叫ぶ

ゴーカイメンバー「豪快チエンジ！！」

五人はキーを差し鎧はゴーカイセルラーにキーを入れて前に突き出す！

【「ゴオオオカイジャー！」】

全員黒いスーツ姿に変わりその後それぞれのカラーの衣装が施され
て最後にヘルメットを装着する！

レッド「ゴーカイレッド！」

ブルー「ゴーカイブルー！」

イエロー「ゴーカイイエロー！」

グリーン「ゴーカイグリーン！」

ピンク「ゴーカイピンク！」

シルバー「ゴオオカイ！シルバー！」

レッド「海賊戦隊！」

ゴーカイメンバー「ゴーカイジャー！」

ファイズBF「思いだしたぞ！あいつらは宇宙海賊のゴーカイジャーだ！」

メロディー「えつ？最近ザンギヤックから人々を守つてゐる噂の海賊団つてあの人たちが？」

レッド「ちがうな！俺達は宇宙最大のお宝を探してゐる海賊だ！」

ブルー「それと俺達にその不幸のメロディーが効かないのはレンジ
ヤーキーの力のおかげだ！」

シルバー「！みなさん！話は後です！来ますよ！」

サムライネガトーンが襲い掛かってきたのだ！

レッド「ちつ！面倒だが！派手に行くぜ！」

グリーン「このサムライみたいなヤツは僕達に任せて！」

リズム「えつ！でも！」

イエロー「ごちゃごちゃ言わないで！あんた達はあっちのカボチャ
の方をやつて！」

ピンク「よろしくお願ひします！」

シルバー「よし！ギンギンにいくぜ～！」

五人はゴーカイサーべルとゴーカイガン！シルバーはゴーカイスピ
アを取り出して走り出す！

レッド「ふん！おりやあ！」

ブルー「ハア！」

イエロー「ほつ！はつ！」

グリーン「ソレソレソレ～！」

ピンク「ハア！えい！」

シルバー「おりやあ～！」

全員の攻撃が見事に決まり怯むネガトーン！

ブルー「アイム！受け取れ！」

アイム「承りました！」

イエロー「ハカセ！」

グリーン「オッケー！ルカ！」

次に互いにゴーカイサーべルとゴーカイガンを交換する！

メロディー「武器を交換？」

リズム「メロディーよそ見しないで！」

パンプキン！ネガトーン！

種を飛ばして来たので避ける！

まずはピンクとグリーンがゴーカイガンで同時射撃を連射し次にブ

ルーとイエローが「一カイサー」ベルで同時に切り裂き一トドメにレッドとシルバーが同時攻撃を決める！

サムライ「ネガトーン！」

だがネガトーンもそう簡単には倒れず耐え切る！

イエロー「しぶといわね～！こいつ～！」

シルバー「相手はサムライですからね～…皆さん…」**ヒーローはシンケンジャーで行きましょう！**

レッド「よし！弔い合戦だ！」

全員シンケンジャーのキーを取り出し変身する！

ゴーカイメンバー「豪快チエンジ！」

【シイイイ～ンケンジャー～！】

全員シンケンジャーに変わる！

レッド「侍戦隊！」

ゴーカイメンバー「シンケンジャー～！」

ビート「姿が変わった！まるでティケイドみたい！」

メロディー＆リズム「凄い…！」

ミユーズ「サムライになっちゃた！」

驚く四人！

レッド「行くぞ！」

五人はシンケンマルを「ゴールドはサカナマル構え走りシンケン六連斬りを繰り出す！

イエロー、ピンク、ブルー、グリーン、レッドが連續で斬りつけ、最後にゴールドがサカナマル・百枚おろしを決める！

レッド「シンケン六連斬！」

サムライ「ぐおおお！ネガトーン！」

サムライは大ダメージを受け跪きシンケンジャーは「ゴーカイジャーに戻る！

レッド「トドメだ！」

ゴーカイバッклからゴーカイガレオンバスターを召還する！

ゴーカイジャー「ゴーカイガレオンバスター！」

メロディー「船？それとも大砲？」

リズム「どっちにも見えるわ！つてよそ見しないで！」

再びカボチャの攻撃をかわす！

シルバー「なら俺も！！」

ゴーカイバッклから15人の追加戦士のキーの力を一つにしたゴ

ールドアンカーキーが出現した！

シルバー「豪快チエンジ！」

そのままゴーカイセルラーの下に差し込む！

【ゴーカイシルバー！ゴールドモード！】

ゴールドアンカーキーが巨大化してそのまま鎧になりゴーグルが下
がってゴールドモードになつた！

シルバーG「ゴーカイシルバー！ゴールドモード！」

決めポーズで決めるシルバーG

ミユ・ズ「シルバー？ゴールド？どちらもです！みなさん行きましょう！」

シルバーG「どちらもです！みなさん行きましょう！」

レッド「よし！ド派手にいくぜ！」

四人がそれぞれのレンジャーキーをゴーカイガレオンバスター差し
最後にレッドが差し込む！5つの専用シリンドラーに差し込んだレン
ジャーキーのエネルギーを【レッドチャージ】の電子音声と共に収
束し、ゴーカイガレオン型のエネルギー弾【ライジングストライク】
を放つ体制に入る！

レッド「鎧！先にやれ！」

シルバーG「わかりました！マ・ベラスさん！」

シルバーGもアンカーモードのゴーカイスピアにレンジャーキーを
差し！

【ファアアアイナルウェーブ！…】

シルバーG「ゴーカイ！レジョンドローム！」

アンカーモードのゴーカイスピアから召喚されたエネルギー体と共に連続で敵を攻撃しトドメにシルバーが切り裂く！

サムライ「ぐ！」

レッド「今だ！」

ゴーカイジャー「ゴーカイ！ライジングストライク！」

【ラアアアイジングストライクウウウ……】

凄まじいエネルギー弾が命中してネガトーンは爆発して消滅して浄化された音符が残る！【レンジャーキーには歴代戦士の正義の力が宿っている為その力で音符が浄化されました】

レッド「うん？なんだこれ？」

レッドがそれを拾う

ピンク「かわいい音符ですね？」

ハミィ「それは幸せの音符だにゃ～」
ちに渡して欲しいにゃ～

ハミィがレッド達に話す

イエロー「猫が喋った～！」

ブルー「なんだおまえは！」

グリーン「君は一体？」

ハミィ「ハミィって言ひついや～！よろしくいや～ゴーカイジャーのみなさんニヤ～」

シルバー「スゲー！喋る猫か！初めて見ましたよ！」

グリーン「いや……多分みんな初めてだと思つよ鎧…」

レッドは音符をハミィに放り投げる…

レッド「こんな物興味ない！ほらよ～くれてやる～！」

ハミィ「ありがとニヤ～」

キヤッチしてフェアリートーンに入れる。

するとモバイレーツから着メロがなる！

レッド「どうした？鳥！」

ナビィ「ザンギヤックが動きだしたよ～急いで戻つて～！」

レッド「わかつた！すぐ戻る！お前ら引き上げるぞ～！」

ブルー「ああ！」

イエロー「あ～あ！せつかぐの休暇だったのに～！」

グリーン「仕方ないよルカ！」

ピンク「そうですね…またここに来ましょう」

シルバー「それにザンギヤックは放つて置けませんからね！」

レッド「おい！猫！プリキュア！悪いが俺達は急用が出来た！だから帰るぜ！じゃあな！」

ゴーカイジャーは引き上げて行つた！

メロディ「強い人達だつたね」

リズム「うん って危ない」

鞭攻撃が飛んできたのでかわす！

メロディ「！こいつしつこいわね～！」

今度はカボチャは種を連射してきてメロディ達はすぐにかわしたがその種が逃げ遅れた子どもに向かつて行く！

リズム「大変！」

ビート「させない！ビートソニック！」

ビートソニックで複数打ち落としたが残りがまだ向かう！

ミューズ「だめ！間に合わない！」

とその時！丸い青い光の壁が突然現れ子どもを守る！

ミューズ「あれは？」

？「まつたく…あぶねえだろ！しつかり状況を見て戦え！」

海だつた！

ミューズ「海さん！」

海「下がつてろ！俺が戦いつて物を見せてやる！」

メロディ「え？でも海さんベルトが…」

海はドライバーを身に着けていなかつた。

海「心配するな！俺にはコレがある！みてろ！」

海の右腕に付いたアグレイターが回転しブレードが開き叫ぶ！

海「アグルウウウ！…………！」

まぶしい青の光と共に等身大の大きさのウルトラマンアグルに変身

する！

アグル「デュア！」

メロディー「え～！なにその姿！」

リズム「さつきの狼くんと同じ仮装？」

アグルが敵の方をみたまま心に話しかける

アグル【仮装じやない！コレが俺の本当の力－海の力と音楽の力！そして宇宙中の光の力が地球に集まつて出来た戦士それが俺－！ウルトラマンアグルだ！】

メロディ「え～！なんで喋つてないのに！」

リズム「それに本物のウルトラマン？」

ビート「海さんあなた一体…」

呆然となる三人

アグル【俺は喋る事は出来ないが心でなら会話が出来るんだ！それにつたろ？俺はウルトラマンだ！】

アグルはまず格闘技で相手を攻撃しさうにスピード感あふれる動きで相手をねじ伏せる！

パンプキンは倒れさらに怒りのボルテージがあがつた後起き上がり種で攻撃する！

パンプキン「ネガトーン！」

ビート「危ない！」

だがアグルは光の剣アグルブレードを出して！

アグル「フォワ！ジュワ！」

アグルはブレードで全ての種をパンプキンに弾き返して攻撃そしてそのまま接近して怯んだパンプキンの手足を切り落とし動きを封じる！

メロディ「凄い！」

リズム「攻撃だけじゃなく町に被害を出さない用に戦つている！」

ビート「かつこいい…！」

アグルはブレードを終い

アグル【ミューズ！俺と必殺技を合わせるぞ…】

ミユーズの心に話す！

ミユーズ「あつうん！」

まずはミユーズがシリーをキュアモジュ・レに装着する！

ミユーズ「シの音符のシャイニングメロディー！」

シリーの力が宿ったモジユーレの力で大量の音符を生み出し、それらをぶつけてネガトーンを包み込み！

ミユーズ「プリキュア！スパークリングシャワー！」

ネガトーンが空中に浮く！

アグルはブライトスポットの前で腕をXの字に組んでエネルギー集約しそしてブライトスポットから必殺技のフォトンクラッシュヤーを放つ！

アグル「デュアアアアア！」

フォトンクラッシュヤーとスパークリングシャワーが合わさりパンプキンを包み

ミユーズ「三拍子！ 1・2・3！ フイナーレ！」

そしてカボチャランタンとアグルの力のおかげか？淨化された音符に戻る

アグル【終わつたな】

そうアグルが言つたとたんライフゲージが赤く点滅し【ピコ・ピコ・ピコ】と鳴り始める！

メロディ「え！ もう三分たつたの！」

リズム「ううん三分以上戦つていたわ！」

ビート「ウルトラマンって地球では確か三分間しか戦えないハズよね？」

アグル【アグルは地球から誕生したからな！だから制限時間はない！だが必殺技を使うとエネルギーを急激に使ってパワーが減つてしまうのだ】

アグルは海に戻る！

海「後はサイガだな…！【なんだ…この感じ…】」

一方ファイズBFは圧倒的な戦略でサイガを追い詰めていた！

サイガ「く！くそ！」

追い詰められたサイガはステアコントローラーのみを引き抜いて変型させた「トンファー エッジモード」を片手で持ちフォンを開いてボタンを押して閉じ走る！

【Exceed Charge】

サイガはサイガスラッシュユを発動した！

ファイズBF「兄貴！甲！行くぜ！」

カイザ「オウ！」

デルタ「了解！」

まずはデルタ！

デルタ「チエック！」

【Exceed Charge】

ルシファーズハンマーを放ちサイガを止める！

サイガ「ぐ！」

カイザ「いぐぞ！男の熱血捨て身戦法パート2クロススラッシュユ！」

【Exceed Charge】

カイザグレイガンでクロススラッシュユを繰り出しサイガを切る！

サイガ「がは！」

ファイズBF「トドメだ！喰らえ！ブラスタークリムゾンスマッシュ！」

【Exceed Charge】

ファイズBFはブラスタークリムゾンスマッシュユを放つ！

全ての攻撃がサイガに襲い掛かるがサイガは何とか耐える！

サイガ「まだだ！王が蘇るまで俺は！」

とその時！突然オーラが現れライダーの必殺技が全てかき消される！

ファイズBF「うつうわあああ！」

カイザ「がああああ！」

デルタ「なつ！なんだ！」

三人が倒れた時オーラからみた事無い化け物が現れサイガを助け起

す！

? 「しつかりしやがれよ！あんな雑魚に負けるな馬鹿！」

? 「……殺す！」

プリキュア達も駆けつける！

メロディー「あれは！」

リズム「ファンガイア？」

確かに少し似てはいたがビートが否定する。

ビート「いいえ違う！あれは！」

ミューズ「間違いない！あれは！」

イエティレジエンドルガとグールレジエンドルガだった！

イエティ「さて！あいつら殺すか！なつ相棒？」

片手をグールの肩にのせ言う

グール「……殺す……楽しみだ……！」

果たしてレジエンドルガの目的は！

劇場版に続く！

ノイズ／アークの真実とわくわくハロウイン！アグルと豪快な海賊参上？【後編】

次回はお待ちかねの劇場版スタートです！これに置きまして555
×スイートプリキュアはとりあえず完結します。

今までありがとうございました！

後嶋先生！オリジナルレジエンドルガありがとうございます！

ゴーカイジャーとアグルは本当は巨大戦にしようと思つていました
が、それだと書くのが凄く大変だったので今回は辞めました！です
がまた機会があれば書いてみようと思います！

では劇場版でお会いしましょう！

NEXT PAGE

劇場版！仮面ライダー キバ！仮面ライダーファイズ！スイートプリ
キュア 復活？魔界の王と光輝く願いのメロディー

登場キャラクター2（前書き）

キャラ設定などです ではいりやー！

登場キャラクター2

メフィスト

原作同様マイナーランドの王

性格など全てが同じだが唯一オリジナルと違うのはオーガに変身することとは古い友人関係である為ある程度友人としての友情を大切にしているもよう。

本作ではキバの世界にいる仮面ライダーアークに洗脳されていたがエクストリームの力とミューズの想いで元に戻った。

トリオザマイナー

原作同様三人組で行動する三人！

何故か初期の頃は仮面ライダーを仮面ライターとよく間違えていたが今回は何故か正しく言える！

ファルセット／タイガーオルフェノク／仮面ライダーサイガ

全て原作同様だが今作ではオルフェノクに進化しておりサイガとタイガーに変身する！

仮面ライター／アーク

キバの世界で封印されているレジエンドルガの親玉でありこの物語の黒幕の一人！

封印される前にダブルの世界からガイアメモリードを盗み出して狼の父親、巧に植え付けて洗脳している。

仮面ライダーダークキバ【初代のキング】

太牙の祖父で音楽を心から愛していた。そのため音吉と協力してノイズとアークを封印し倒し方を伝えた後に太牙の父によって暗殺されてしまう

当時かなり高齢だった為封印が精一杯だつたらしい

藤宮海ふじみやかい／ウルトラマンアグル／仮面ライダー・ディガンマ

年齢 16歳

演 水島ヒロ

狼の幼なじみでアグルとディガンマに変身する高校生の小年
クールな性格だが正義感が強く子どもが好き。また幼なじみの狼や
死んだ弟の面影があるアコは放つて置けない為時々助ける!
右腕にアグレイターを身に着けている。

オルフェエノクではないがアグルの力のおかげで変身が可能になつて
いる

特技は水泳

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1734x/>

仮面ライダーファイズ×スイートプリキュア！転校生は仮面ライダー？

2011年11月17日21時10分発行